

**ELECOM**

ファイル同期ツール

# クローン for Windows



## User's Manual

ユーザーズマニュアル

第1版

2022/9/1

用語	4
このマニュアルで使われている記号	4
本ツールの免責事項について	4
本製品の概要	5
導入する	7
環境例	7
設定例	8
インストールする	9
メール設定する	10
同期設定	13
マスター / スレーブ同期設定	14
クラウドストレージ同期	21
外付けHDD同期設定をする	30
お使いのNASがダウンしたときは	32
ワークグループ環境でマスター機がダウンした場合	32
Active Directory 環境でマスター機がダウンした場合	34
スレーブ機がダウンした場合	37
マスター機とスレーブ機がダウンして、クラウドストレージから復旧する場合	38
マスター機とスレーブ機がダウンして、外付けHDDから復旧する場合	42
設定一覧	44
クローン 情報	44
クローン 設定	45
NAS同期	49
切替	51
Azure連携	52

---

AWS連携	54
HDD同期	57
ログ表示	60
こんなときは	71
同期が実行できない	71
同期がエラー終了する	71
同期が実行されたのか確認したい	71
同期時刻が重なった場合はどうなりますか?	71
メールが送信できない	71
同期データのファイルやフォルダー単位での復元 (リストア) がしたい	71
ネットワーク設定切替したら、エラーが表示された	71
スレーブ機をマスター機に切り替えた後、アクセスできない	72
クラウドストレージへの同期に失敗する	72
ActiveDirectory サーバーをマスター機にしたら、同期に失敗する	72
外付けHDDへの同期に失敗する	72
マスター機とスレーブ機のファイル (フォルダー) 数に違いがある	72
マスター昇格時にエラーが発生する	72

## このマニュアルで使われている記号

記号	意味
	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、故障の原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。

## 本ツールの免責事項について

### 免責事項

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

- ・ 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
- ・ 本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
- ・ 本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

# 本製品の概要

クローン for Windows (以下、クローン)は、NAS 上の共有フォルダーを他のNAS やクラウドストレージ、外付けHDDに同期するためのツールです。

## ■ NAS同期

- クローンでは、同期元NASを「マスター機」、同期先NASを「スレーブ機」と呼びます。マスター機の共有フォルダーを、スレーブ機の共有フォルダーに定期的に同期します。
- 設定したスケジュールにしたがって同期しますので、日中のアクセスが集中するタイミングは避け、夜間に同期するなど、業務に負担をかけないデータ同期を実現します。

## ■ レプリケーションとの違い

内容	クローン	レプリケーション
同期タイミング	設定したスケジュールにしたがって同期	データ変更があるとすぐに同期
データ保持	前回同期までのデータを保持	最新データを保持

## ■ スムーズな運用再開

- クローンは、共有フォルダー上のデータだけでなく、「設定情報\*」も同期します。
- いざというときは、スレーブ機を「マスターに昇格」することで、設定情報を引き継いでスレーブ機がマスター機として振る舞います。  
※設定情報 … 「コンピューター名」、「ドメイン名(ワークグループ)」、「IPアドレス」、「ユーザー、グループ、共有情報」、「クローンのジョブ設定」

## ■ クラウドストレージ連携

NAS に直接襲いかかる災害に備え、Microsoft Azure や Amazon S3 などのクラウドストレージにデータを同期できます。いざというときは、クラウドストレージからデータを復元できます。

## ■ 外付けHDD 同期

NAS に障害が発生したときに備え、外付けHDDにデータとネットワーク設定情報を同期できます。いざというときは、外付けHDDからデータとネットワーク設定情報を復元できます。データを復元するのに容量に応じた時間がかかりますが、低コストで備えることが可能です。

## ■ 同期先と復元内容

クローンは、同期先により復元できる内容が異なります。

同期先	復元できる内容
NAS (スレーブ)	<b>ネットワーク情報</b> コンピューター名 ドメイン名(ワークグループ) IPアドレス
	<b>ユーザー情報</b>
	<b>グループ情報</b>
	<b>共有情報</b> フォルダー ファイル
	<b>クローンのマスター / スレーブ間同期のジョブ設定</b>
クラウドストレージ	<b>同期設定したフォルダー内のファイル</b>
外付け HDD	<b>ネットワーク情報</b> コンピューター名 ドメイン名(ワークグループ) IPアドレス
	<b>ユーザー情報</b>
	<b>グループ情報</b>
	<b>共有情報</b> フォルダー ファイル
	<b>クローンのマスター / スレーブ間同期のジョブ設定</b>

### 【制限事項】

- 世代管理はできません。(世代管理をおこなう場合は、世代管理が可能なバックアップソフトの併用をおすすめします。)
- ACL 情報のコピーは、ActiveDirectory 環境上のマスター / スレーブ間同期でのみ可能です。
- ACL 情報を含めた同期をおこなう際は、マスター・スレーブのルートフォルダーは、同じアクセス権設定にしてください。
- 同期データからファイル / フォルダー / ボリューム単位での復元はできません。
- システムファイルの同期はできません。システムファイル(フォルダー)は、同期時の対象数に含まれません。
- NTFS ファイルシステムにより暗号化されたフォルダー / ファイルの同期はできません。
- NTFS ファイルシステムにより圧縮されたフォルダー / ファイルは同期できますが、同期先では圧縮は外れます。
- 共有フォルダーの引き継ぎはサーバー OS のみ対応しています。
- DNS は最大 8 個まで対応、NIC は最大 4 個まで対応しています。

# 導入する

## 環境例

クローンは、そのNAS の用途に合わせてインストールする必要があります。  
お使いの環境をご確認の上、インストールするクローンの種類をお選びください。

クローンの種類	対応 OS	用途
マスター機用	Windows Server IoT 2022 for Storage Windows Server IoT 2019 for Storage Windows Storage Server 2016 Windows Server 2016 Windows 11/10 <sup>※</sup>	マスター機として設定
スレーブ機用	Windows Server IoT 2022 for Storage Windows Server IoT 2019 for Storage Windows Storage Server 2016 Windows Server 2016 Windows 11/10 <sup>※</sup>	スレーブ機として設定

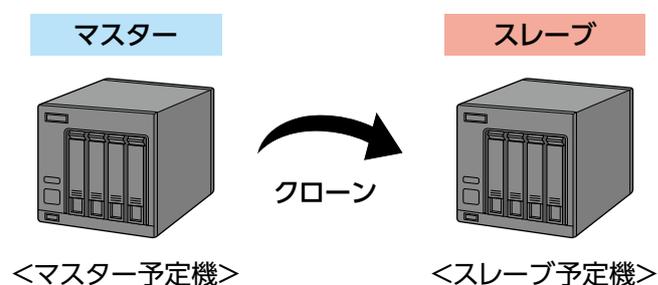
※ Windows 10 Sには対応していません。

## 設定例

### マスター / スレーブの同期体制を整える

マスター予定機からスレーブ予定機に同期します。  
VPN 経由で利用する場合は、十分なスループットを確保できる光回線をご使用ください。

→ [14ページ「マスター / スレーブ同期設定」](#)

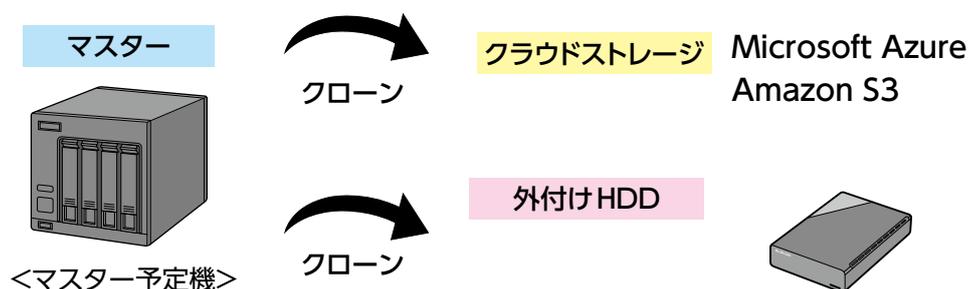


### スレーブ以外の同期体制を整える

マスター予定機から、クラウドストレージ (Microsoft Azure、Amazon S3) や外付けHDDに同期します。

→ [21ページ「クラウドストレージ同期」](#)

→ [30ページ「外付けHDD同期設定をする」](#)



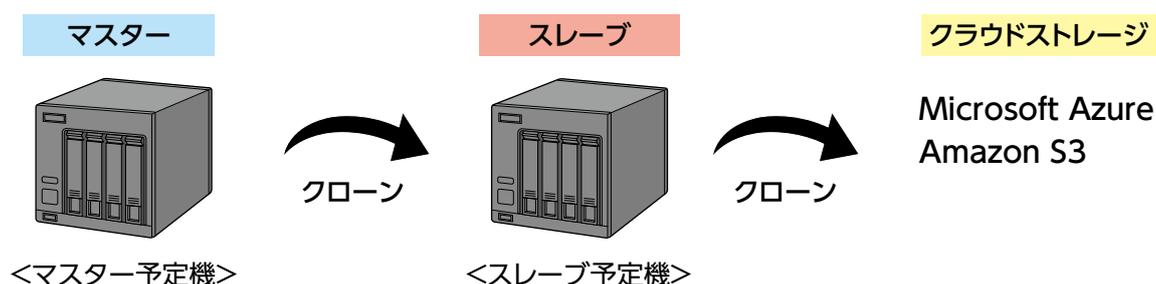
### マスター / スレーブ + $\alpha$ の同期体制を整える

マスター / スレーブ同期体制に加えて、さらにクラウドストレージに同期します。

クラウドストレージとの同期は、スレーブ側であることをおすすめします。業務の負荷と同期負荷の分散を図ることができます。

→ [14ページ「マスター / スレーブ同期設定」](#)

→ [21ページ「クラウドストレージ同期」](#)



## インストールする

インストールの前に、以下をご確認ください。

- **インストールするクローンは、マスターとスレーブで同じバージョンを使用する**  
マスター機とスレーブ機にインストールするクローンは同じバージョンのものをご使用ください。  
同じバージョンのクローンでないと、同期に失敗する場合があります。
- **クローンの削除方法について**  
クローンを削除するNASで「CloneMenu.exe」を起動し、ボタンをクリックして画面の指示にしたがってください。  
(すでにクローンがインストールされている場合、どのボタンをクリックしても削除をおこないます)  
※ クローンがインストールされていない場合は、インストールされます。  
※ コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」からでも削除できます。

**MEMO** クローンのインストール時に、OSは再起動されません。

### 1 インストールするNASで「CloneMenu.exe」を起動します。



### 2 用途に合わせてマスター機用またはスレーブ機用インストーラーを選択します。

→7ページ [「環境例」](#)

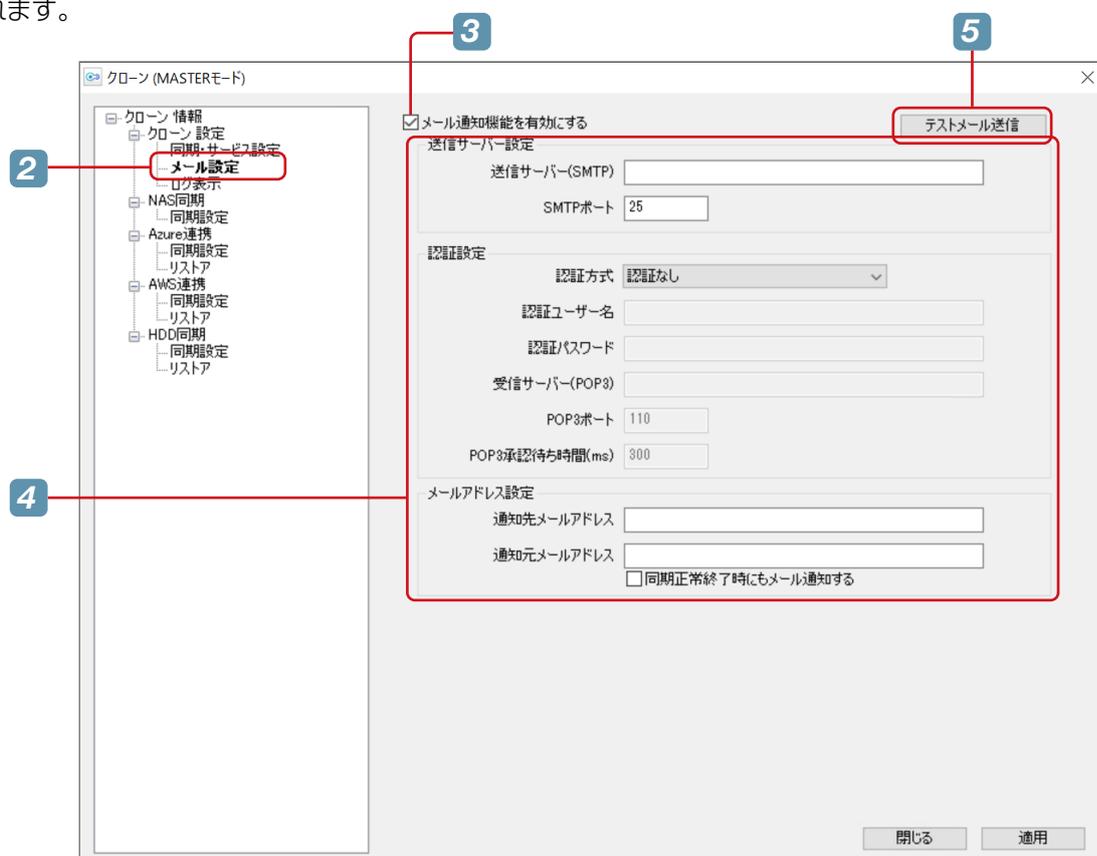


以降は、画面の指示にしたがってインストールしてください。

## メール設定する

クローンが同期に失敗したときなどにメールで通知がくるように設定できます。

- 1 クローンを起動します。
- 2 クローンマネージャーが表示されますので、「クローン 設定」の「メール設定」を選択します。
- 3 「メール通知機能を有効にする」にチェックを入れます。
- 4 通知を受け取るメールに関する項目を設定し、「適用」をクリックします。  
設定が保存されます。



項目	内容		
メール通知機能を有効にする	チェックを入れると、イベント発生時にメールで通知がくるように設定できます。		
送信サーバー設定	送信サーバーに関する設定をします。		
認証設定	認証に関する設定をします。		
メールアドレス設定	通知するメールアドレスと、その際に送信元となるメールアドレスを設定します。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>同期正常終了時にもメール通知する</td> <td>同期が正常に終了した場合にもメールで通知します。</td> </tr> </table>	同期正常終了時にもメール通知する	同期が正常に終了した場合にもメールで通知します。
同期正常終了時にもメール通知する	同期が正常に終了した場合にもメールで通知します。		

- 5 「テストメール送信」をクリックし、メールが届くことを確認します。

## Gmail を利用する場合

以下の設定をしてください。

### ● Gmailのアカウント設定

※以下の手順は2022年9月時点のものです。最新の各手順はGmailのヘルプをご覧ください。

#### 設定 1

#### 2段階認証プロセスを設定します。

Googleアカウントでログイン後、「アカウント情報」の「Googleへのログイン」から、「2段階認証プロセス」を有効に設定します。

※2段階認証プロセスを設定すると、他のGoogleアプリ用のパスワードの生成や設定などさらに作業が必要になる場合があります。

#### 設定 2

「Googleへのログイン」から「アプリのパスワード」で、本製品用のパスワードを生成します。

#### ① アプリパスワードを生成するアプリとデバイスを選択します。

アプリは「メール」、デバイスは「その他（名前を入力）」を選択し、任意の名前を入力して「生成」ボタンをクリックします。

← アプリパスワード

アプリパスワードを使用すると、2段階認証プロセスに対応していないデバイス上のアプリからGoogleアカウントにログインできるようになります。このパスワードは一度入力すれば、以降は覚えておく必要はありません。 [詳細](#)

アプリパスワードがありません。

アプリパスワードを生成するアプリとデバイスを選択してください。

アプリを選択      デバイスを選択 ▼

メール  
カレンダー  
連絡先  
YouTube  
その他（名前を入力）

生成

← アプリパスワード

アプリパスワードを使用すると、2段階認証プロセスに対応していないデバイス上のアプリからGoogleアカウントにログインできるようになります。このパスワードは一度入力すれば、以降は覚えておく必要はありません。 [詳細](#)

アプリパスワードがありません。

アプリパスワードを生成するアプリとデバイスを選択してください。

アプリを選択 ▼      デバイスを選択

iPhone  
iPad  
BlackBerry  
Mac  
Windows Phone  
Windows パソコン  
その他（名前を入力）

生成

#### ② 生成されたパスワードを、クローンマネージャーの「認証パスワード」に入力します。

生成されたアプリパスワード

お使いのデバイスのアプリパスワード

この部分にパスワードが表示されます

使い方

設定しようとしているアプリケーションまたはデバイスのGoogleアカウントの設定画面を開きます。パスワードを上に表示されている16文字のパスワードに置き換えます。

このアプリパスワードは、通常のパスワードと同様にGoogleアカウントへの完全なアクセス権が付与されます。このパスワードを覚えておく必要はないので、メモしたり誰かと共有したりしないでください。

完了

## ● クローンのメール設定

項目	内容
送信サーバー (SMTP)	smtp.gmail.com
SMTP ポート	587
認証方式	SMTP AUTH (通信路を暗号化する)
認証ユーザー名	Google アカウントのユーザー名
認証パスワード	Google アカウントのパスワード (2段階認証の場合、接続用に生成したパスワード)
受信サーバー (POP3)	smtp.gmail.com
POP3 ポート	110(初期値)
POP3 認証待ち時間 (ms)	300(初期値)
通知先メールアドレス	Gmailのメールアドレス (**@gmail.com)
通知元メールアドレス	Gmailのメールアドレス (**@gmail.com)

**重要****同期の前にご確認ください**

同期先のスレーブ機、クラウドストレージ、外付けHDDの各フォルダー内にあるデータは、クローンから同期を実行すると削除されます。

必要なデータは事前にバックアップしておいてください。

マスター / スレーブ同期設定

→ 14 ページ

クラウドストレージ同期設定

→ 21 ページ

外付けHDD同期設定をする

→ 30 ページ

**MEMO** 同期時の制限

- 登録できる最大ジョブ数は、15 個までです。
- 1 ジョブあたり同期可能な最大ファイル数は、64bit時は480万ファイル、32bit時は15万ファイルまでです。(フォルダーを含む)

※ 同期設定のオプション設定は、「同期・サービス設定」画面でおこなうことができます。

[\[同期・サービス設定\]](#)(→P.45)

## マスター / スレーブ同期設定

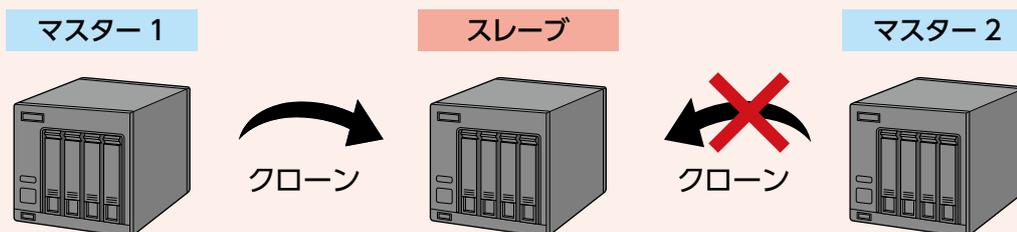
マスターのクローンを操作して同期設定をおこないます。

### 重要

#### 同期先設定時のご注意

マスターとスレーブは1台ずつでの同期設定でお使いください。

複数のマスターから同一のスレーブに同期設定をしてしまうと、同期データが上書きされてしまいます。



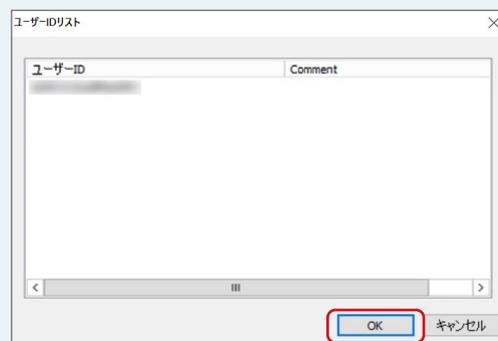
#### MEMO Active Directory 環境で、ACL 情報も同期する場合

ACL 情報のコピーは、ActiveDirectory 環境上のマスター / スレーブ間同期でのみ可能です。事前に以下の設定をおこなってください。

- ① スレーブでクローンを起動します。
- ② メニューから [ACL 同期補助] を選択し、「ユーザー ID リスト」をクリックします。



- ③ ユーザーを選択し、「OK」をクリックします。



- ④ 「適用」をクリックします。

これでスレーブ側の設定は完了です。次ページ以降の手順にしたがってください。

## 1 導入の前に以下の設定を決め、メモしてください。

項目		マスターの設定	スレーブの設定
コンピューター名			
IP アドレス			
共有フォルダー	共有名		
	パス		

※ マスター / スレーブ間同期は必ず1対1の構成としてください。

**MEMO** クローンを実行する前に  
マスターとスレーブのドライブ構成は同じ構成にしてください。

## 2 クローンを起動します。

## 3 クローンマネージャーが表示されますので、「NAS同期」の「同期設定」を選択します。

## 4 「新規ジョブ作成」をクリックします。

The screenshot shows the 'クローン (MASTERモード)' application window. On the left, a tree view under 'クローン情報' includes 'NAS同期' with a sub-item '同期設定' circled in red and labeled '3'. Below that, '新規ジョブ作成' is circled in red and labeled '4'. The main area contains a table for job names and a detailed configuration form for a new job, including fields for job name, source folder, target computer name, and various synchronization options.

## 5 「ジョブ設定」の項目を入力します。

ジョブ名	ジョブの名前を設定します。
VSS を利用する	<p>チェックを入れると、同期開始時に VSS スナップショットをおこない、同期にそれを使用します。</p> <p>● VSS (ボリューム・シャドウコピー・サービス)</p> <p>通常ロックされている (編集中など) ファイルをコピーはできませんが、VSS 機能を利用すると、その「スナップショット (現在の状態)」を作成し、ロック中のファイルも含めてコピーを完了することができます。</p>
同期元フォルダー	「参照」をクリックし、同期するフォルダーを選択します。
同期先コンピューター名	同期先のコンピューター名を入力し、同期先のドライブレターを選択します。
同期先ドライブレター	<p>※ VPN 環境下など、ネットワークアドレスが異なる場合は IP アドレスで指定します。</p> <p>※ マスターとスレーブのドライブ構成は、同じにしてください。</p>
同期先ログインユーザー	変更する必要はありません。
同期先ログインパスワード	変更する必要はありません。
ACL 情報もコピー	<p>チェックを入れると、ACL 情報の同期もおこないます。</p> <p>ACL 情報をコピーするには、事前にスレーブの設定が必要です。</p> <p><a href="#">14ページ「Active Directory 環境で、ACL 情報も同期する場合」参照</a></p>

## MEMO

## ● スレーブへの設定反映について

クローン同期時にマスターの設定情報がスレーブに保存されますが、スレーブ側の設定は変更されません。スレーブの「マスターに昇格」時に反映されます。

## ● データ転送速度の目安

10GB (ファイル数50,000)のデータで、約90分かかります。

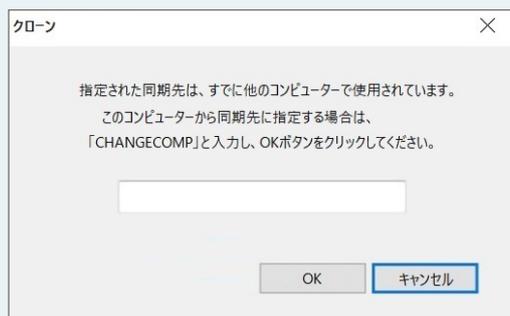
ACL情報もコピーした場合は、約100分かかります。

※ ファイル数やサイズなどによってもかかる時間は変わります。

## ● 同期元を変更する場合

すでに設定されている同期先を指定した場合は、右の画面が表示されます。

画面の指示にしたがって同期元を変更することはできませんが、次回フル同期がおこなわれ、現在同期先にあるデータはすべて削除されますのでご注意ください。



## 6 スケジュールを設定します。

毎週実行する設定にする場合は、複数の曜日とひとつの時刻を設定します。

毎月実行する設定にする場合は、ひとつの日にちとひとつの時刻を設定します。

増分同期	前回の同期から変更があったファイルやフォルダーのみを同期します。
フル同期	同じファイルやフォルダーがあってもすべて上書きして同期します。

## 7 「保存」をクリックします。

ジョブが追加されます。

**MEMO** 以下のファイルは、同期されません。

- システムファイル、システムフォルダー
- ユーザー「SYSTEM」にアクセス権限がないファイル

これで同期ジョブが登録されました。

## ■ 切替テスト

マスターがダウンした場合を想定し、スレーブをマスターに昇格した後も運用可能かをテストすることができます。実運用前に必要に応じておこなってください。

### マスター機の操作

- 1 マスターに適切なテストファイルを作成し、作成したジョブを使用して「今すぐ同期処理を行う」を実行します。

→14ページ「マスター/スレーブ同期設定」

- 2 同期完了後、マスターの電源を切り、マスターをネットワークから取り外します。

### スレーブ機の操作

- 3 クローンを起動します。

- 4 クローンマネージャーが表示されますので、「切替」の「マスターに昇格」を選択します。

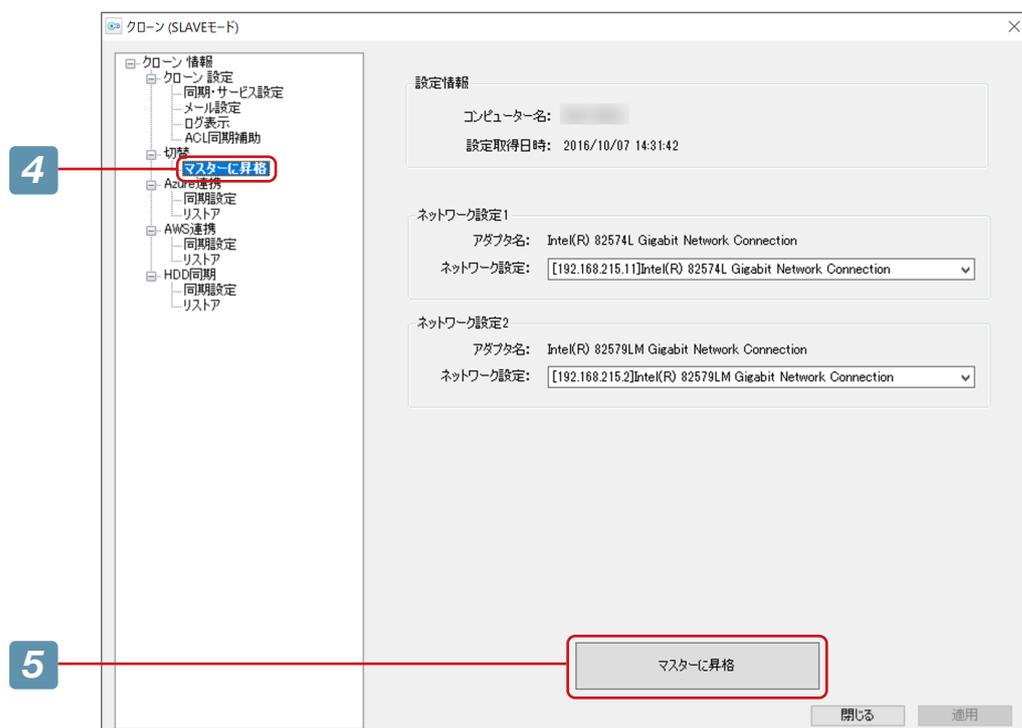
- 5 設定を確認してから「マスターに昇格」をクリックします。

「設定情報」と、各LANポートに反映される「ネットワーク設定」を確認してから「マスターに昇格」をクリックしてください。

マスターの設定が適用され、スレーブがマスターに変更されます。クローンもマスター用になります。

※ ActiveDirectory環境でローカルユーザーが作成されている場合、パスワード設定画面が表示されますので、この時点でパスワードを設定してください。

パスワード設定をキャンセルした場合、このユーザーは移行されません。



**MEMO** Active Directory 環境でご利用の場合は「Active Directory 環境でマスター機がダウンした場合」(→P.34)をご参照ください。

**6** 同期したデータにアクセス可能であることを確認します。

#### 確認後の再設定 (マスターに昇格したNASをスレーブに戻す)

**7** マスターに昇格したNASのクローンを削除します。

→9ページ「インストールする」

**8** IPアドレス、コンピューター名をスレーブの設定に戻します。

→14ページ「マスター/スレーブ同期設定」

**9** スレーブ用のクローンを再インストールします。

→9ページ「インストールする」

**10** 手順2でネットワークから取り外したマスターをネットワークにつなぎ、再度電源を入れます。

## クラウドストレージ同期

マスター/スレーブのどちら側のクローンでも同期設定ができます。

- マスター/スレーブ環境において、マスターでクラウドストレージ同期を行う場合は、負荷軽減のためスケジュールをずらして設定してください。

例えば、夜間にマスターからスレーブに同期し、その後にスレーブからクラウドストレージに同期します。こうすることで、業務内でもマスターに負荷をかけずに同期できます。

### 重要

#### ●同期先設定時のご注意

同期元とコンテナ/バケットは1対1での同期設定でお使いください。

複数の同期元から同一のコンテナ/バケットに同期設定をしてしまうと、同期データが上書きされてしまいます。



#### ●同期先に自動作成されるファイルは、削除しないでください。

「CloneForWindows」フォルダーに「f003ef6bb89b.UUID.Check」が自動で作成されます。このファイルは、クローンで同期元識別に使用する必要なファイルですので削除しないでください。

## ■ Microsoft Azure と同期する

### Microsoft Azure とは

Microsoft Azure は、Microsoft が提供するクラウドサービスです。

その内の1つのクラウドストレージサービスである Blob Storage ではコンテナと呼ばれる領域に、簡単にファイルの格納や、取得をすることができます。

Microsoft Azure に関する詳細は、Microsoft Azure のホームページをご覧ください。

<https://azure.microsoft.com/>

### Microsoft Azure との同期に関する注意

- アップロード可能なファイルは、1ファイル200GBまでです。
- Microsoft Azure 上のBlobはブロックBlobのみが同期対象となり、ページBlobは同期対象外となります。
- Microsoft Azure のBlob Storage は保存容量・通信量に応じて課金されます。頻りに更新されるデータがある場合、請求額が大きくなる場合があります。  
Microsoft Azure ご契約サイトなどで料金を確認しながら運用されることを推奨します。
- プロキシをお使いの場合は、「同期・サービス設定」(→P.45)でプロキシの設定をしてください。
- Microsoft Azure 同期の設定は、マスター/スレーブ間で共有されません。スレーブをマスターに切り替えた場合、新しいスレーブにMicrosoft Azure 同期の設定をし、マスター(元スレーブ)からMicrosoft Azure 同期の設定を削除することをおすすめします。

### Microsoft Azure の設定を確認する

事前にMicrosoft Azure (<https://azure.microsoft.com/>)にアクセスし、Microsoft アカウントを作成してください。

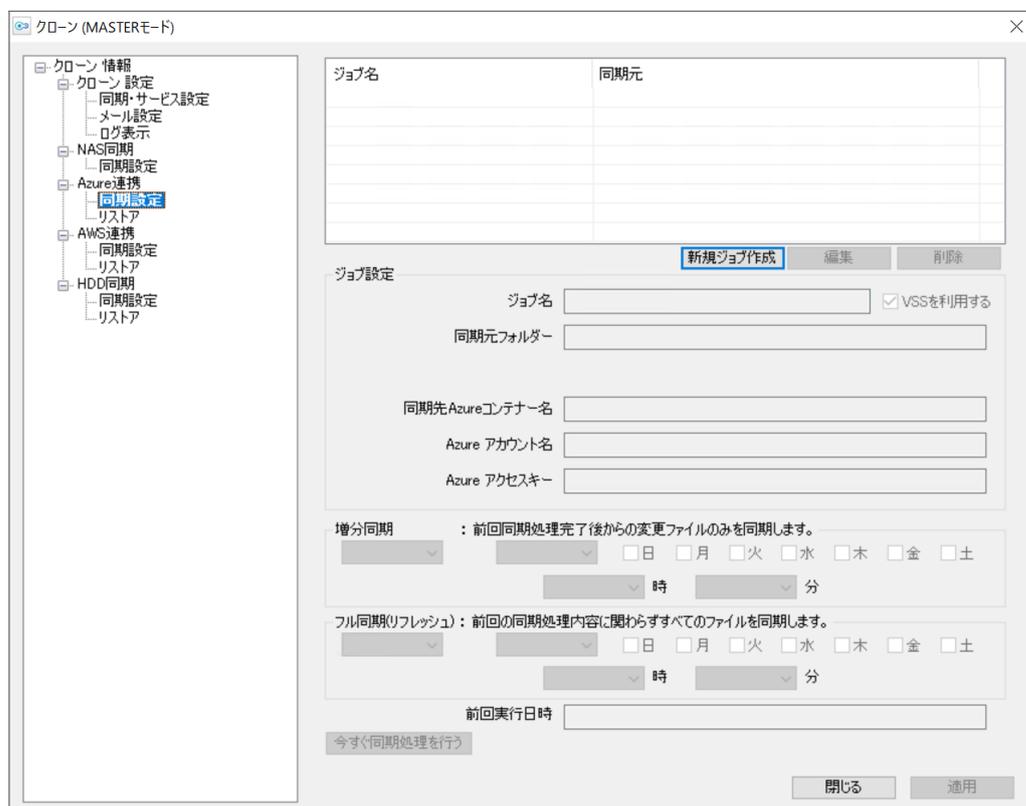
Microsoft アカウント作成後、さらにストレージアカウントやコンテナを作成、およびプライマリアクセスキーを確認し、以下をメモしてください。

コンテナ名	コンテナは、上記で作成したストレージアカウントをクリックし、Microsoft Azure ホームページ画面上の「コンテナ」の「追加」から作成します。 コンテナの「アクセス」方法は、任意にお選びください。
ストレージアカウント名	ストレージアカウントは、Microsoft アカウントでサインイン後、Microsoft Azure ホームページ画面左下の「新規」の「データサービス」の「ストレージ」の「簡易作成」から作成します。
ストレージアカウントのプライマリアクセスキー	プライマリアクセスキーは、上記で作成したストレージアカウントをクリックし、Microsoft Azure ホームページ画面下の「アクセスキーの管理」から確認します。

※ Microsoft Azure についての不明点、通信料金、規約については、Microsoft Azure のホームページにてご確認ください。

**1** クローンを起動します。

**2** クローンマネージャーが表示されますので、「Azure連携」の「同期設定」を選択します。



**3** 「新規ジョブ作成」をクリックします。

## 4 「ジョブ設定」の項目を入力します。

ジョブ名	ジョブの名前を設定します。
VSS を利用する	<p>チェックを入れると、同期開始時に VSS スナップショットをおこない、同期にそれを使用します。</p> <p>● VSS (ボリューム・シャドウコピー・サービス) 通常ロックされている (編集中など) ファイルをコピーはできませんが、VSS 機能を利用すると、その「スナップショット (現在の状態)」を作成し、ロック中のファイルも含めてコピーを完了することができます。</p>
同期元フォルダー	「参照」をクリックし、同期するフォルダーを選択します。
同期先 Azure コンテナ名	Microsoft Azure のコンテナ情報を入力します。
Azure アカウント名	※ [アカウント名] にはストレージアカウントを入力してください。
Azure アクセスキー	

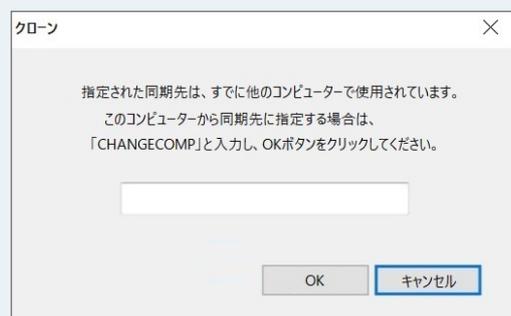
### MEMO

#### 同期元を変更する場合

Microsoft Azure との同期の場合、コンテナ単位の同期となるため、複数のジョブから同一のコンテナを同期先として設定できません。

すでに設定されている同期先を指定した場合は、以下の画面が表示されます。

画面の指示にしたがって同期元を変更することはできませんが、次回フル同期がおこなわれ、現在同期先にあるデータはすべて削除されますのでご注意ください。



## 5 スケジュールを設定します。

クローン (MASTERモード)

クローン 情報

- クローン 設定
  - 同期・サービス設定
  - メール設定
  - ログ表示
- NAS同期
  - 同期設定
- Azure連携
  - 同期設定
  - リストア
- AWS連携
  - 同期設定
  - リストア
- HDD同期
  - 同期設定
  - リストア

ジョブ名: 同期元

ジョブ設定

ジョブ名: 新規Azureジョブ220803  VSSを利用する

同期元フォルダー:

同期先Azureコンテナ名:

Azure アカウント名:

Azure アクセスキー:

増分同期: 前回同期処理完了後からの変更ファイルのみを同期します。

毎週  1日 日 月 火 水 木 金 土

23  時 00  分

フル同期(リフレッシュ): 前回の同期処理内容に関わらずすべてのファイルを同期します。

毎月  1日 日 月 火 水 木 金 土

23  時 00  分

前回実行日時:

毎週実行する設定にする場合は、複数の曜日とひとつの時刻を設定します。

毎月実行する設定にする場合は、ひとつの日にちとひとつの時刻を設定します。

増分同期	前回の同期から変更があったファイルやフォルダーのみを同期します。
フル同期	同じファイルやフォルダーがあってもすべて上書きして同期します。

## 6 「保存」をクリックします。

ジョブが追加されます。

これで同期ジョブが登録されました。

## ■ Amazon S3 と同期する

### Amazon S3とは

Amazon S3は、Amazon が提供するクラウドサービスです。  
バケットと呼ばれるプライベートな領域に、簡単にファイルの格納や、取得をすることができます。  
Amazon S3に関する詳細は、次のホームページをご覧ください。

<https://aws.amazon.com/jp/s3/>

### Amazon S3 への同期に関する注意

- ・ アップロード可能なファイルは、1 ファイル5GBまでです。
- ・ Amazon S3上のGlacierストレージクラスには対応しておりません。
- ・ Amazon S3は保存容量・通信量に応じて課金されます。頻繁に更新されるデータがある場合、請求額が大きくなる場合があります。Amazon S3ご契約サイトなどで料金を確認しながら運用されることを推奨します。
- ・ プロキシをお使いの場合は、[\[同期・サービス設定\] \(47ページ\)](#)でプロキシの設定をしてください。
- ・ Amazon S3同期の設定は、マスター/スレーブ間で共有されません。  
スレーブをマスターに切り替えた場合、新しいスレーブにAmazon S3同期の設定をし、マスター（元スレーブ）からAmazon S3同期の設定を削除することをおすすめします。
- ・ AWS互換サービスに対応しております。

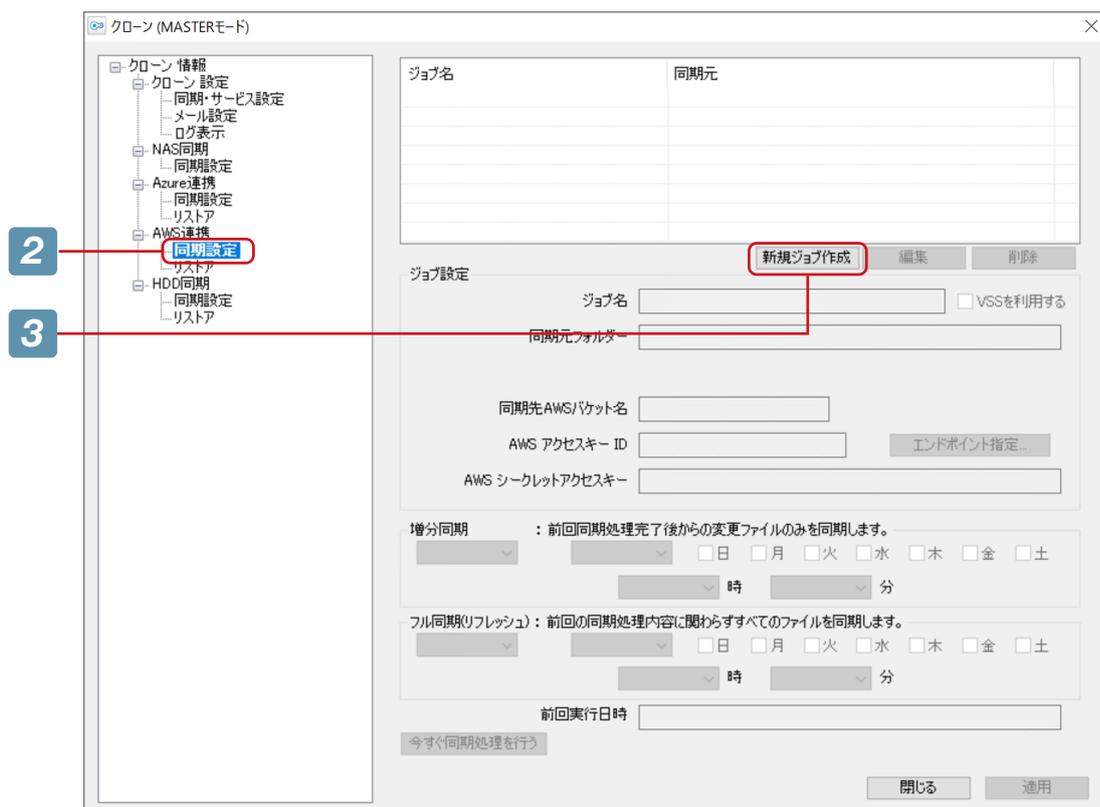
### Amazon S3 の設定を確認する

事前にAmazon S3 (<https://aws.amazon.com/jp/s3/>)にアクセスし、AWSアカウントを作成してください。  
アカウント作成後、そのアカウントにてバケットおよびアクセスキーを作成し、以下をメモしてください。

項目	内容
バケット名	3文字以上63文字以内で作成してください。
作成したアカウントのアクセスキーID	アクセスキーは、「セキュリティ証明書」または「Security Credentials」から作成します。
シークレットキー	アクセスキーIDとシークレットキーについては、そのアカウントでのサインアップ後、Amazon S3ホームページ画面右上の「アカウント/コンソール」の「セキュリティ証明書」を開いた先の「アクセス証明書」の「アクセスキー」タブをご参照ください。

※ Amazon S3 についての不明点、通信料金、規約については、Amazon S3 のホームページにてご確認ください。

- 1 クローンを起動します。
- 2 クローンマネージャーが表示されますので、「AWS連携」の「同期設定」を選択します。
- 3 「新規ジョブ作成」をクリックします。



## 4 新規ジョブの設定をおこないます。

※ Amazon S3との同期の場合、バケット単位の同期となるため、複数のジョブから同一のバケットを同期先として設定できません。同期元を変更する場合は、次ページをご覧ください。

ジョブ名	ジョブの名前を設定します。
VSS を利用する	<p>チェックを入れると、同期開始時に VSS スナップショットをおこない、同期にそれを使用します。</p> <p>● VSS (ボリューム・シャドウコピー・サービス)</p> <p>通常ロックされている (編集中等) ファイルをコピーはできませんが、VSS 機能を利用すると、その「スナップショット (現在の状態)」を作成し、ロック中のファイルも含めてコピーを完了することができます。</p>
同期元フォルダー	「参照」をクリックし、同期するフォルダーを選択します。
同期先 AWS バケット名	Amazon S3 のアカウント情報を入力します。
AWS アクセスキー ID	※ エンドポイント指定については、次ページをご覧ください。
AWS シークレットアクセスキー	
ACL 情報もコピー	<p>チェックを入れると、ACL 情報の同期もおこないます。</p> <p>ACL 情報をコピーするには、事前にスレーブの設定が必要です。</p> <p><a href="#">14 ページ「Active Directory 環境で、ACL 情報も同期する場合」参照</a></p>

## MEMO

## ● エンドポイント指定

AWS 互換サービスを使用する場合、「エンドポイント指定」で設定します。

[エンドポイント]と[ポート]を入力し、[アクセス先をエンドポイントで指定する]にチェックをつけます。

## ● 同期元を変更する場合

すでに設定されている同期先を指定した場合は、右の画面が表示されます。

画面の指示にしたがって同期元を変更することはできますが、次回フル同期がおこなわれ、現在同期先にあるデータはすべて削除されますのでご注意ください。

## 5

## スケジュールを設定します。

毎週実行する設定にする場合は、複数の曜日とひとつの時刻を設定します。

毎月実行する設定にする場合は、ひとつの日にちとひとつの時刻を設定します。

増分同期	前回の同期から変更があったファイルやフォルダーのみを同期します。
フル同期	同じファイルやフォルダーがあってもすべて上書きして同期します。

**6**

**「保存」をクリックします。**

ジョブが追加されます。

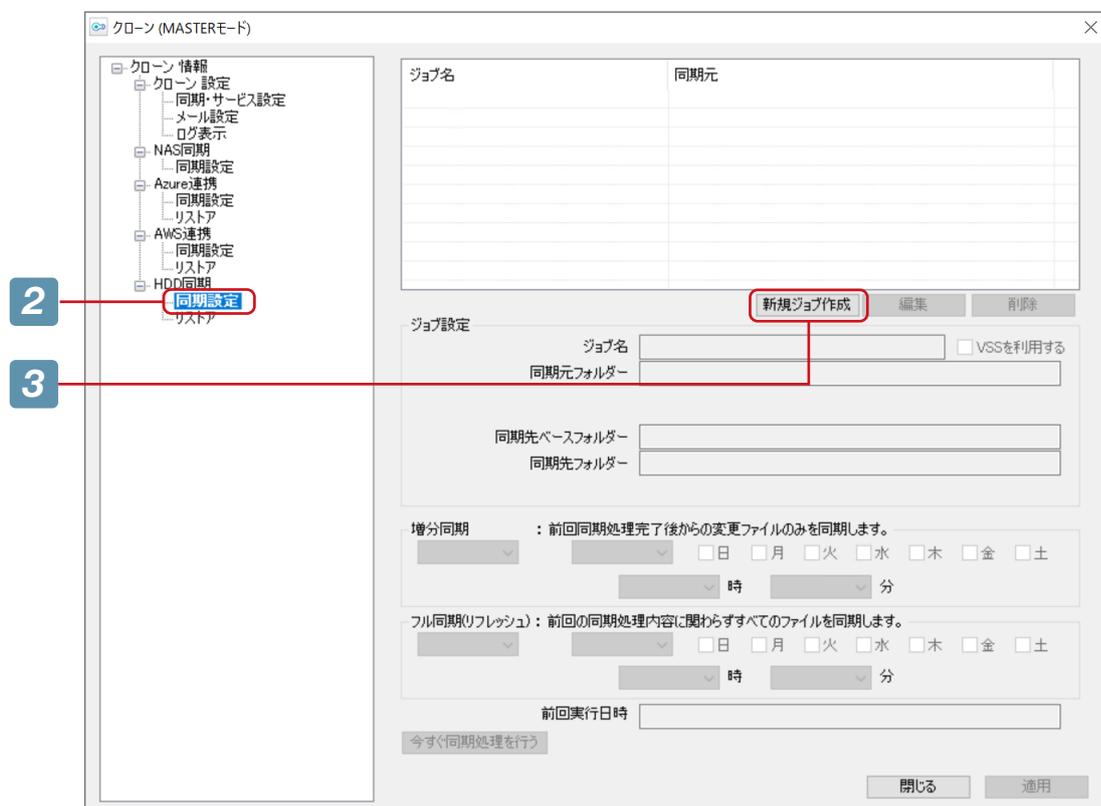
**これで同期ジョブが登録されました。**

## 外付けHDD同期設定をする

マスター/スレーブのどちら側でも同期設定ができます。

- 事前に、同期するNASに外付けHDDを接続してください。
- ネットワーク設定を含む同期をする場合は、マスターにつないでください。

- 1 クローンを起動します。
- 2 クローンマネージャーが表示されますので、「HDD同期」の「同期設定」を選択します。
- 3 「新規ジョブ作成」をクリックします。



## 4 新規ジョブの設定をおこないます。

ジョブ名	ジョブの名前を設定します。
VSS を利用する	<p>チェックを入れると、同期開始時に VSS スナップショットをおこない、同期にそれを使用します。</p> <p>● VSS (ボリューム・シャドウコピー・サービス) 通常ロックされている (編集中など) ファイルをコピーはできませんが、VSS 機能を利用すると、その「スナップショット (現在の状態)」を作成し、ロック中のファイルも含めてコピーを完了することができます。</p>
同期元フォルダー	「参照」をクリックし、同期するフォルダーを選択します。
同期先ベースフォルダー	「参照」をクリックし、同期先フォルダーを選択します。
同期先フォルダー	

## 5 「保存」をクリックします。

ジョブが追加されます。

これで同期ジョブが登録されました。

# お使いのNASがダウンしたときは

**MEMO** クローンはシステムの初期化には対応していません。  
NASシステムの初期化方法は、管理マニュアルをご確認ください。

## ワークグループ環境でマスター機がダウンした場合

マスター機がダウンした場合、スレーブ機を「マスターに昇格」して対応します。

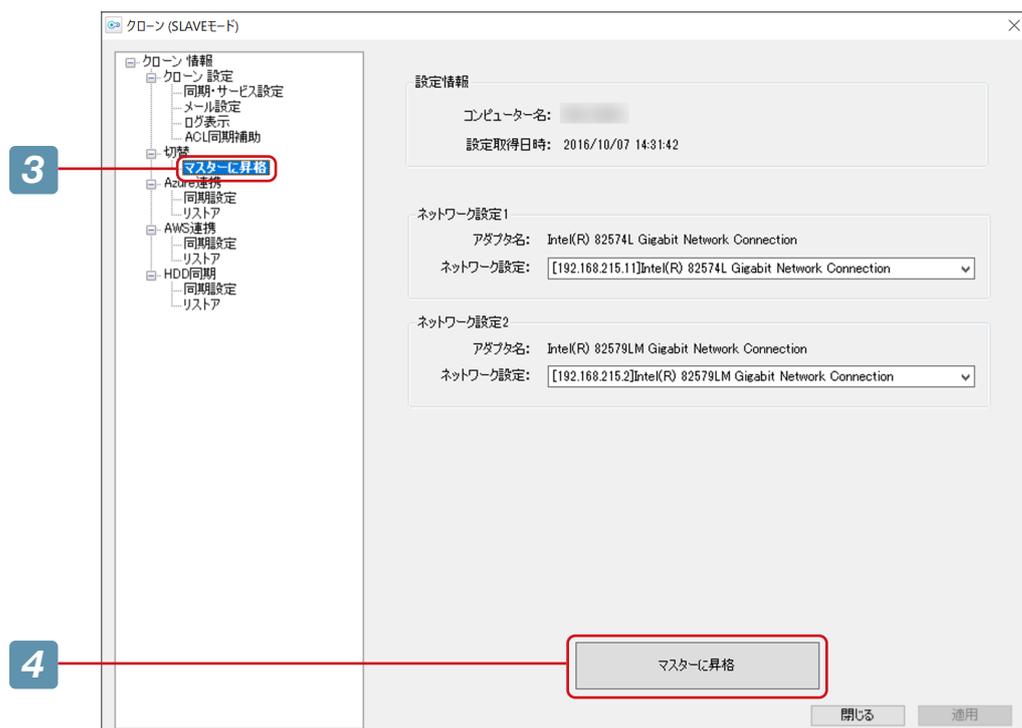
**MEMO** 「マスターに昇格」を実行する前に、マスターとスレーブのドライブ構成をあわせてください。

### マスター機の操作

- 1 マスター機の電源が入っている場合は、シャットダウンし、ネットワークから取り外します。  
※ 修理の必要がある場合は、マスター機を修理に出してください。

### スレーブ機の操作 (この手順でマスター機になります)

- 2 クローンを起動します。
- 3 クローンマネージャーが表示されますので、「切替」の「マスターに昇格」を選択します。
- 4 設定を確認してから「マスターに昇格」をクリックして、スレーブをマスターに変更します。  
「設定情報」と、各LANポートに反映される「ネットワーク設定」を確認してから「マスターに昇格」をクリックしてください。  
スレーブ機にマスター機の設定がされ、マスター機になります。クローンもマスター機用になります。



## 5 ユーザーのパスワードを設定し直します。

マスター機の設定後は、ユーザーのパスワードはユーザー名になっています。改めて設定し直してください。

● 日本語ユーザー名をご利用の場合は、必ず管理者権限でパスワードをリセットしてください。

※ すでに同一ユーザーが登録されている場合、パスワードは変更されません。

## 6 共有のアクセス権を設定し直します。

マスター機の設定後は、共有のアクセス権がリセットされています。改めて設定し直してください。

### 旧マスター機の操作 (この手順によりスレーブ機になります)

## 7 ダウンした旧マスター機の修理が終わったり、またはスペアのNASがある場合は、それをスレーブとして設定します。

→ [14ページ「マスター/スレーブ同期設定」](#)

## 8 スレーブ用のクローンをインストールします。

## 9 スレーブ機をネットワークにつなぎます。

設定した同期時刻まで時間がある場合は、手動でマスターとフル同期することをおすすめします。

(「今すぐ同期処理を行う」をクリックしてください)

これで復旧は完了です。

- MEMO**
- マスター機にインストールしていたソフトウェアについて  
復元前にマスター機にインストールされていたソフトウェア (UP 管理ソフト、セキュリティソフト等) は復元されませんので、必要に応じて再インストールしてください。
  - クラウドストレージや外付けHDDに設定していたジョブについて  
スレーブ時点で設定したクラウドストレージや外付けHDDのジョブは、「マスターに昇格」時に削除されます。必要に応じて設定し直してください。

## Active Directory 環境でマスター機がダウンした場合

Active Directory環境でマスター機がダウンした場合、スレーブ機を「マスターに昇格」して対応します。

### 重要

#### Active Directory環境でご利用の場合

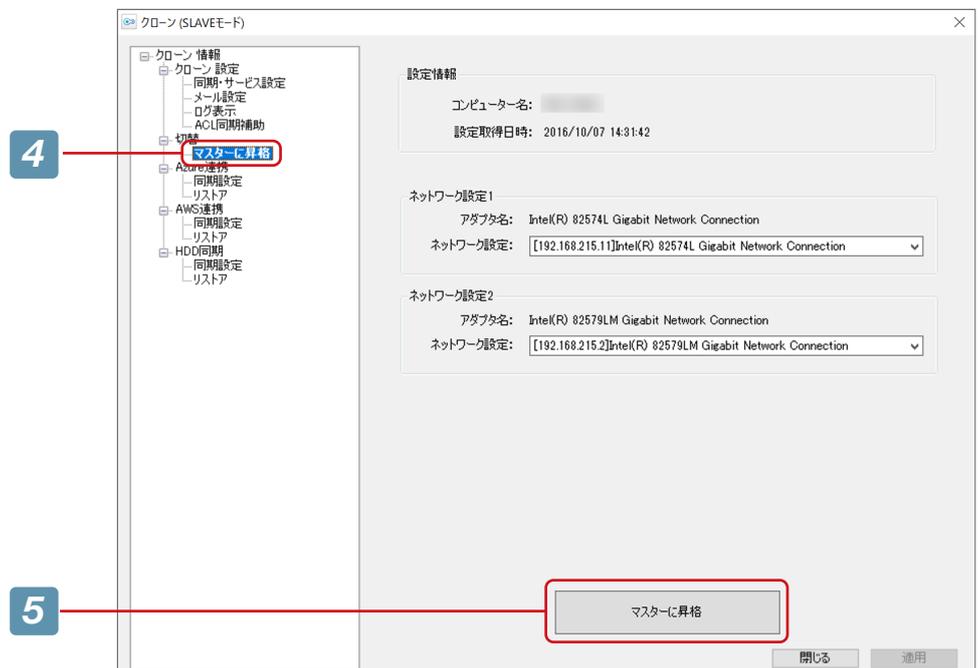
- スレーブをマスターに昇格させる際、再起動が3回おこなわれます。  
これはスレーブのマスター昇格の際DNSを書き換える必要があるためです。
- 「新規ジョブ作成」時に「ACL情報もコピー」にチェックを入れた場合、アクセス権設定はコピーしたACLに上位フォルダーから継承された権限が加えられます。(Everyone (フルコントロール)、Users (フルコントロール))  
そのため、マスターに昇格後はアクセス権設定をご確認のうえ、不要な権限を削除してください。

### マスター機の操作

- 1 マスター機の電源が入っている場合は、シャットダウンし、ネットワークから取り外します。  
※ 修理の必要がある場合は、マスター機を修理に出してください。

### スレーブ機の操作

- 2 クローンを起動します。
- 3 クローンマネージャーが表示されますので、「切替」の「マスターに昇格」を選択します。
- 4 設定を確認してから「マスターに昇格」をクリックします。  
「設定情報」と、各LANポートに反映される「ネットワーク設定」を確認してから「マスターに昇格」をクリックしてください。  
マスターの設定が適用され、スレーブがマスターに変更されます。クローンもマスター用になります。



※ ActiveDirectory環境でローカルユーザーが作成されている場合、パスワード設定画面が表示されますので、この時点でパスワードを設定してください。

パスワード設定をキャンセルした場合、このユーザーは移行されません。

## 5 再起動を求められたら、再起動します。

## 6 再起動したら、新マスター機(元スレーブ機)にログオンします。

※ 出荷時設定のユーザー名/パスワードでログオンできない場合は、マスターに設定したユーザー名/パスワードを入力します。

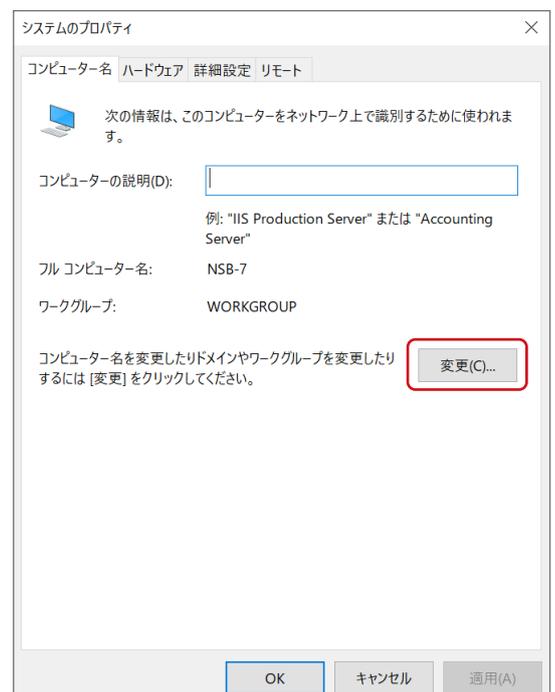
## 7 新マスター機を、いったんワークグループに設定します。

<ドメインの設定方法>

- ① サーバーマネージャーを起動します。
- ② 「サーバーマネージャー」が表示されますので、「ダッシュボード」の「ローカルサーバー」を開きます。
- ③ 「ドメイン」の横の項目をクリックします。



- ④ 「システムのプロパティ」で「変更」をクリックします。



⑤「所属するグループ」を設定します。

コンピュータ名/ドメイン名の変更

このコンピュータの名前とメンバーシップを変更できます。変更により、ネットワーク リソースへのアクセスに影響する場合があります。

コンピュータ名(C):  
NSB-7

フル コンピュータ名:  
NSB-7

詳細(M)...

所属するグループ

ドメイン(D):

ワークグループ(W):  
WORKGROUP

OK キャンセル

8 新マスター機を再起動します。

9 再起動した新マスター機を再度 Active Directory に設定し直します。

※ 手順7をご確認ください。

10 新マスター機を再起動します。

※ 再起動後、[33 ページ「旧マスター機の操作 \(この手順によりスレーブ機になります\)」](#)をご参照ください。

**MEMO** ダウンした旧マスター機を修理後、スレーブ機として再利用する場合  
いったんワークグループに設定し、コンピューター名等を変更してから、Active Directory に設定し直してください。  
([35 ページ「<ドメインの設定方法>」](#)をご参照ください)

## スレーブ機がダウンした場合

スレーブ機がダウンした場合、スレーブ機を取り外して対処します。

### スレーブ機の操作（この手順でマスター機になります）

- 1** スレーブ機の電源が入っている場合は、シャットダウンし、ネットワークから取り外します。  
※ 修理の必要がある場合は、スレーブ機を修理に出してください。

### スレーブ機の修理が終わったら…

- 2** 修理したスレーブ機、またはスペアのNASをスレーブ機として再設定します。  
→ [14ページ「マスター/スレーブ同期設定」](#)
- 3** スレーブ用のクローンをインストールします。
- 4** スレーブ機をネットワークにつなぎます。

これで復旧は完了です。

※ 修理後、初回の同期は「フル同期」を実行してください。

## マスター機とスレーブ機がダウンして、クラウドストレージから復旧する場合

マスター／スレーブの両方ともダウンしてしまった場合などは、クラウドストレージに同期したデータから復旧できます。

**MEMO** すでにリストア先フォルダーにあるファイルについて  
クラウドストレージから復旧する場合、指定したフォルダーへの同期されていたファイルの復元のみをおこないません。このため、リストア前にリストア先のフォルダーにファイルが存在しても削除されません。ただし、同名ファイルは上書きされます。

### ■ Microsoft Azure から復旧する

#### 1 修理したNAS、またはスペアのNASをマスター機として設定します。

ユーザー、グループも設定し直してください。

→14ページ「マスター／スレーブ同期設定」

#### 2 マスター用のクローンをインストールします。

#### 3 ネットワークにつなぎ、クローンを起動します。

#### 4 「Azure連携」の「リストア」を選択します。

#### 5 「リストア設定」の項目を入力します。

クローン (MASTERモード)

ジョブ名      リストア先

リストア設定

リストア元Azureコンテナ名

Azure アカウント名

Azure アクセスキー

リストア先フォルダー  参照

リストアを開始する

閉じる      適用

リストア元 Azure コンテナ名	リストア元に使っていた Microsoft Azure のコンテナ名を入力します。
Azure アカウント名	Microsoft Azure のアカウントを入力します。
Azure アクセスキー	コンテナのアクセスキーを入力します。
リストア先フォルダー	リストア先のフォルダーを設定します。

## 5 「リストアを開始する」をクリックします。

データが復旧されます。

## ■ Amazon S3 から復旧する

- 1 修理したNAS、またはスペアのNASをマスター機として設定します。  
ユーザー、グループも設定し直してください。  
[→14ページ「マスター/スレーブ同期設定」](#)
- 2 マスター用のクローンをインストールします。
- 3 ネットワークにつなぎ、クローンを起動します。
- 4 「AWS連携」の「リストア」を選択します。
- 5 「リストア設定」の項目を入力します。

The screenshot shows the 'クローン (MASTERモード)' window. On the left is a tree view menu with options like 'クローン情報', 'クローン設定', '同期・サービス設定', 'メール設定', 'ログ表示', 'NAS同期', 'Azure連携', 'AWS連携', and 'HDD同期'. The 'AWS連携' section is expanded to show 'リストア'. The main area has a table with columns 'ジョブ名' and 'リストア先'. Below the table is the 'リストア設定' section, which is highlighted with a red box. It contains the following fields and buttons:

- リストア元AWS/バケット名:  amazonaws を使用
- AWS アクセスキー ID:  エンドポイント指定...
- AWS シークレットアクセスキー:
- リストア先フォルダー:  参照

At the bottom of the window, there is a 'リストアを開始する' button, and at the very bottom, '閉じる' and '適用' buttons.

リストア元 AWS バケット名	リストア元 Amazon S3 のバケット名を入力します。
AWS アクセスキー ID	リストア元 Amazon S3 のアカウントキーを入力する。 ※ エンドポイント指定については、次ページをご覧ください。
AWS シークレットアクセスキー	リストア元 Amazon S3 のシークレットアクセスキーを入力します。
リストア先フォルダー	リストア先のフォルダーを設定します。

- 6 「リストアを開始する」をクリックします。  
データが復旧されます。

**MEMO エンドポイント指定**

AWS 互換サービスを使用する場合、「エンドポイント指定」で設定します。

[エンドポイント]と[ポート]を入力し、[アクセス先をエンドポイントで指定する]にチェックをつけます。

エンドポイント指定

アクセス先をエンドポイントで指定する

エンドポイント

ポート

OK キャンセル

## マスター機とスレーブ機がダウンして、外付けHDDから復旧する場合

マスター/スレーブの両方ともダウンしてしまった場合などは、外付けHDDに同期したデータから復旧できます。

### 1 修理したNAS、またはスペアのNASをマスター機として設定します。

ユーザー、グループも設定し直してください。

→ [14ページ「マスター/スレーブ同期設定」](#)

### 2 マスター用のクローンをインストールします。

### 3 同期した外付けHDDをつなぎ、クローンを起動します。

### 4 「HDD同期」の「リストア」を選択します。

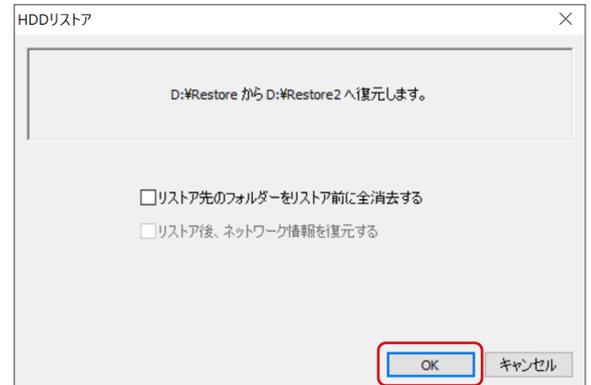
### 5 「リストア設定」の項目を入力します。

リストア元フォルダー	リストア元外付けHDDのフォルダーを入力します。
リストア先フォルダー	リストア先のフォルダーを設定します。

### 6 「リストアを開始する」をクリックします。

データが復旧されます。

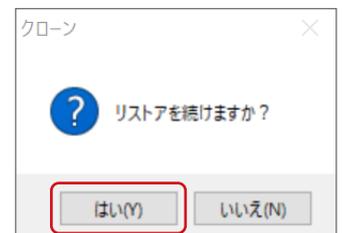
**7** 「HDDリストア」画面が表示されますので、必要な項目にチェックを入れ、「OK」をクリックします。



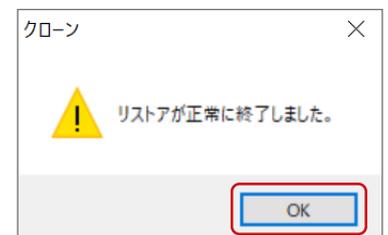
リストア先のフォルダーをリストア前に全消去する	チェックを入れると、リストア先に指定したフォルダー以下を全消去した後、リストアを開始します。
リストア後、ネットワーク情報を復元する	<p>チェックを入れると、リストア後、同期されているネットワーク情報を復元します。</p> <p>● 復元されるネットワーク情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンピューター名</li> <li>・ ドメイン名 (またはワークグループ)</li> <li>・ IP アドレス</li> <li>・ ユーザー情報</li> <li>・ グループ情報</li> <li>・ 共有フォルダー情報</li> </ul>

**8** 確認画面が表示されますので、「はい」をクリックします。

リストアを開始します。



**9** 「OK」をクリックします。



## クローン 情報



M: マスター機用 S: スレーブ機用

項目	内容	クローン	
		M	S
サービス / プログラム状態	サービスの状態が表示されます。		
	<b>実行中</b> サービスが実行中		
	<b>停止</b> 停止状態		
	<b>一時停止</b> 一時停止状態		
	<b>開始中</b> 開始途中		
	<b>停止中</b> 停止途中		
	<b>一時停止中</b> 一時停止途中	○	○
	<b>再開中</b> 一時停止から復帰中		
<b>取得失敗</b> サービス情報が取得できなかった (サービスがインストールされていない等)			
	スレーブのクローンマネージャーでは「NAS 同期サービス」は「停止」と表示されますが、問題ありません。		
バージョン情報	クローンのバージョンを表示します。	○	○
利用規約	利用規約を表示します。		

## クローン 設定

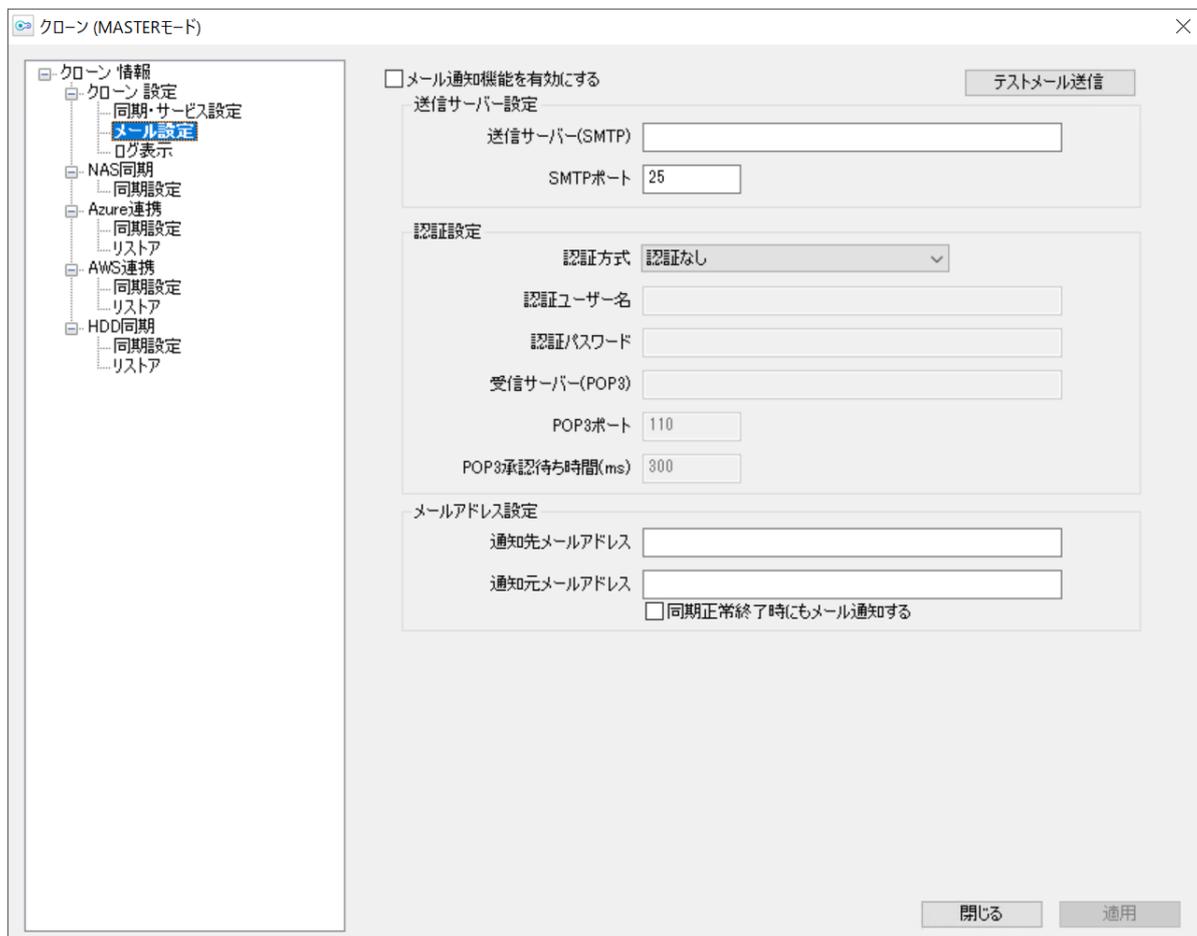
### ■ 同期・サービス設定



M: マスター機用 S: スレーブ機用

項目	内容	クローン									
		M	S								
クローン設定	クローンの動作を設定します。 変更の反映には、Windows の再起動が必要です。										
	<table border="1"> <tr> <td>起動時に経過済みスケジュールを実行する</td> <td>チェックを入れると、クローン起動時に、実施予定時刻を経過しているスケジュールを実行します。</td> </tr> <tr> <td>全ての同期失敗ファイルをログに残す</td> <td>チェックを入れると、同期に失敗したファイルを、すべてログに記録します。</td> </tr> <tr> <td>同期に成功したファイルもログに残す</td> <td>チェックを入れると、同期に成功したファイルについても、ログに記録します。</td> </tr> <tr> <td>同期を低優先度で実行する</td> <td>チェックを入れると、CPU 優先度を低優先度で同期処理します。(チェックを外すと、通常優先度で同期処理します。)</td> </tr> </table>	起動時に経過済みスケジュールを実行する	チェックを入れると、クローン起動時に、実施予定時刻を経過しているスケジュールを実行します。	全ての同期失敗ファイルをログに残す	チェックを入れると、同期に失敗したファイルを、すべてログに記録します。	同期に成功したファイルもログに残す	チェックを入れると、同期に成功したファイルについても、ログに記録します。	同期を低優先度で実行する	チェックを入れると、CPU 優先度を低優先度で同期処理します。(チェックを外すと、通常優先度で同期処理します。)	○	○
	起動時に経過済みスケジュールを実行する	チェックを入れると、クローン起動時に、実施予定時刻を経過しているスケジュールを実行します。									
	全ての同期失敗ファイルをログに残す	チェックを入れると、同期に失敗したファイルを、すべてログに記録します。									
同期に成功したファイルもログに残す	チェックを入れると、同期に成功したファイルについても、ログに記録します。										
同期を低優先度で実行する	チェックを入れると、CPU 優先度を低優先度で同期処理します。(チェックを外すと、通常優先度で同期処理します。)										
プロキシ設定	<table border="1"> <tr> <td>プロキシ サーバーを使用する</td> <td>チェックを入れると、Azure/AWS 同期 / リストア、クローンのアップデート時の接続にプロキシサーバーを使います。</td> </tr> <tr> <td>アドレス</td> <td rowspan="2">ネットワーク管理者にご確認ください。</td> </tr> <tr> <td>ポート</td> </tr> </table>	プロキシ サーバーを使用する	チェックを入れると、Azure/AWS 同期 / リストア、クローンのアップデート時の接続にプロキシサーバーを使います。	アドレス	ネットワーク管理者にご確認ください。	ポート	○	○			
プロキシ サーバーを使用する	チェックを入れると、Azure/AWS 同期 / リストア、クローンのアップデート時の接続にプロキシサーバーを使います。										
アドレス	ネットワーク管理者にご確認ください。										
ポート											

## ■ メール設定



M: マスター機用 S: スレーブ機用

項目	内容	クローン	
		M	S
メール通知機能を有効にする	チェックを入れると、イベント発生時にメールで通知がくるように設定できます。	○	○
テストメール送信	設定した内容でテストメールを送信します。	○	○
送信サーバー設定	送信サーバーに関する設定をします。	○	○
認証設定	認証に関する設定をします。	○	○
メールアドレス設定	通知するメールアドレスと、その際に送信元となるメールアドレスを設定します。	○	○
	<table border="1"> <tr> <td>同期正常終了時にもメール通知する</td> <td>同期が正常に終了した場合にもメールで通知します。</td> </tr> </table>		
同期正常終了時にもメール通知する	同期が正常に終了した場合にもメールで通知します。		

## ■ ログ表示



M: マスター機用 S: スレーブ機用

項目	内容	クローン	
		M	S
表示サービス	マスター / スレーブ同期と Azure 同期のログ表示を切り替えます。	○	○
表示年月	ログ表示する日付を切り替えます。	○	○
ファイル出力	タブ区切りテキストファイルで、ログを出力します。	○	○
更新	ログの内容を更新します。	○	○
詳細を表示する	各同期の成功・失敗ファイル一覧を表示します。	○	○
ログファイル全消去	ログをすべて削除します。	○	○
日時 / ログ内容	ログを一覧表示します。ログファイルは 31 日間保存されます。 ※ ログの内容については、「ログ表示」(→P.47)をご覧ください。	○	○

## ■ ACL同期補助 ※ スレーブのみ表示



M: マスター機用 S: スレーブ機用

項目	内容	クローン	
		M	S
ユーザー ID リスト	ACL 同期設定が可能なユーザーを選びます。 Administrator 権限を持ち、パスワード期限が無制限のユーザーのみ表示されます。 ユーザーを指定すると、「NAS 同期」の「同期設定」画面で「ACL 情報もコピー」にチェック可能になります。	—	○

## NAS同期

### ■ 同期設定 ※ マスターのみ表示

クローン (MASTERモード)

ジョブ名 | 同期元

ジョブ設定

新規ジョブ作成 | 編集 | 削除

ジョブ名   VSSを利用する

同期元フォルダー

同期先コンピューター名  | 同期先ドライブレター

同期先共有名

同期先ログインユーザー   ACL情報もコピー

同期先ログインパスワード

増分同期 : 前回同期処理完了後からの変更ファイルのみを同期します。

日 月 火 水 木 金 土

時 分

フル同期(リフレッシュ) : 前回の同期処理内容に関わらずすべてのファイルを同期します。

日 月 火 水 木 金 土

時 分

前回実行日時

M: マスター機用 S: スレーブ機用

項目	内容	クローン	
		M	S
ジョブ名/同期元	作成した同期一覧が表示されます。	○	○※1
新規ジョブ作成	ジョブを新規作成し、設定します。	○	○※1
編集	選んだジョブを編集します。	○	○※1
削除	選んだジョブを削除します。	○	○※1

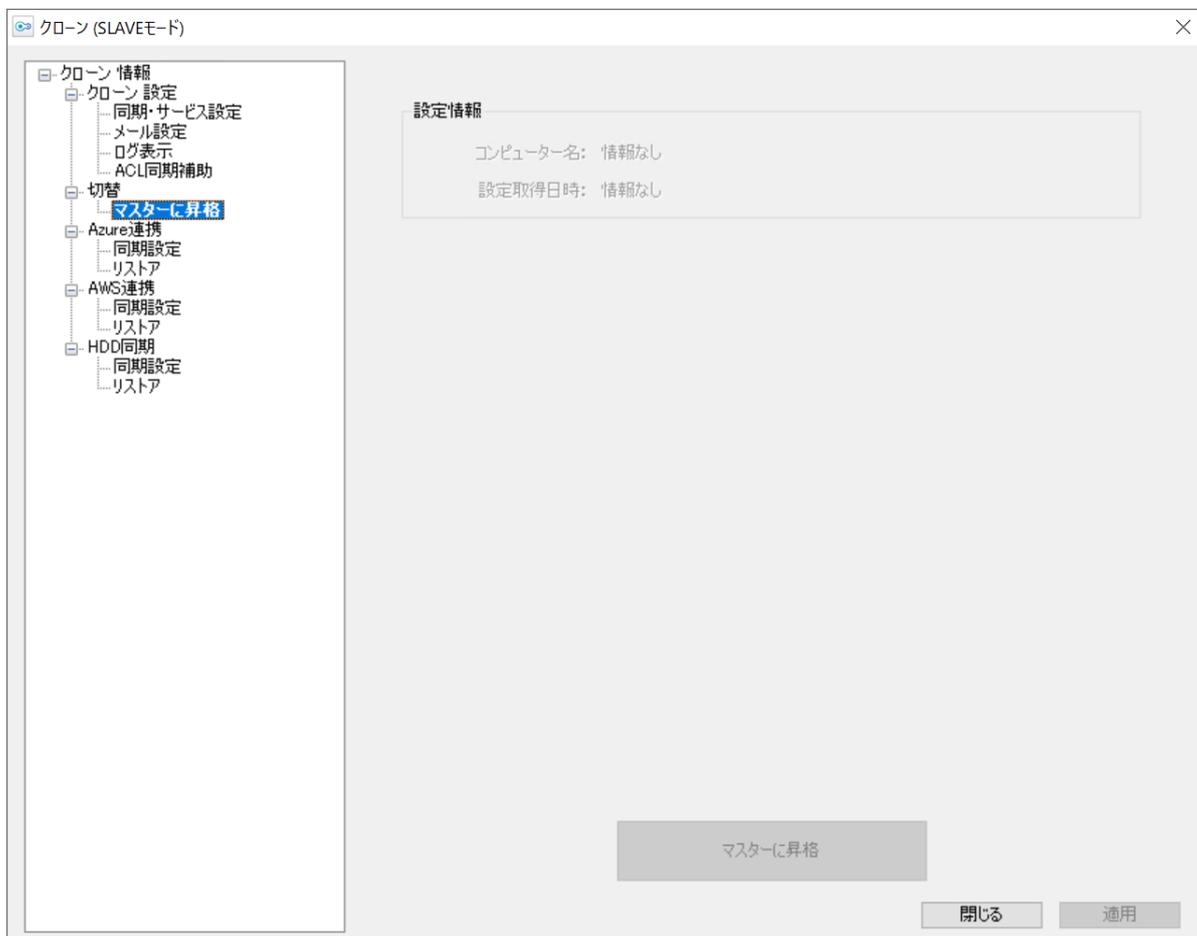
項目	内容	クローン	
		M	S
ジョブ設定	ジョブ名	ジョブの名前を設定します。	
	VSS を利用する	チェックを入れると、同期開始時にVSS スナップショットをおこない、同期にそれを使用します。	
	同期元フォルダー	マスターの同期する共有フォルダーを設定します。	
	同期先コンピューター名	同期先のコンピューター名を入力し、同期先のドライブレターを選択します。	
	同期先ドライブレター	※ VPN 環境下など、ネットワークアドレスが異なる場合は IP アドレスで指定します。 ※ マスターとスレーブのドライブ構成は、同じにしてください。	
	同期先ログインユーザー	スレーブのログインに使用するユーザー名とパスワードを入力します。	
	同期先ログインパスワード		
ACL 情報もコピー	チェックを入れると、ACL 情報の同期もおこないます。スレーブのクローンの ACL 補助設定 (48 ページ「ACL 同期補助」) で、ACL 同期に使用する ID が設定されている場合のみチェック可能になります。		
増分同期	増分同期のスケジュールを設定します。 ※2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ※1
フル同期 (リフレッシュ)	フル同期のスケジュールを設定します。 ※2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ※1
前回実行日時	直近で同期した日時が表示されます。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ※1
今すぐ同期処理を行う	設定した内容で同期します。フル同期と増分同期を選ぶことができます。実行中の場合は、[同期中止]と表示されます。クリックすると同期を中止します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ※1

※1 確認のみです。設定はできません。

※2 最新の同期データに上書きされます。同期の履歴は残りません。

## 切替

### ■ マスターに昇格 ※ スレーブのみ表示



M: マスター機用 S: スレーブ機用

項目	内容	クローン	
		M	S
設定情報	マスター機のコンピューター名と設定情報を取得した日時が表示されます。	—	○
ネットワーク設定	マスター機のネットワーク設定をどちらの LAN ポートに割り振るか設定します。 ネットワーク設定 x が LAN ポート x になります。 例) ネットワーク設定 2 が LAN ポート 2	—	○
マスターに昇格	スレーブをマスターに切り替えます。	—	○

## Azure 連携

### ■ 同期設定

M: マスター機用 S: スレーブ機用

項目	内容	クローン	
		M	S
ジョブ名/同期元	作成した同期一覧が表示されます。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
新規ジョブ作成	ジョブを新規作成し、設定します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
編集	選んだジョブを編集します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
削除	選んだジョブを削除します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ジョブ設定	ジョブ名	ジョブの名前を設定します。	
	VSS を利用する	VSS 機能を利用すると、その「スナップショット (現在の状態)」を作成し、ロック中のファイルも含めてコピーを完了することができます。	
	同期元フォルダー	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	同期先 Azure コンテナ名	同期先 Microsoft Azure のコンテナ名を入力します。	
	Azure アカウント名	同期先 Microsoft Azure のアカウント名を入力します。	
	Azure アクセスキー	同期先 Microsoft Azure のアクセスキーを入力します。	
増分同期	増分同期のスケジュールを設定します。*	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

項目	内容	クローン	
		M	S
フル同期 (リフレッシュ)	フル同期のスケジュールを設定します。*	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
前回実行日時	直近で同期した日時が表示されます。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
今すぐ同期 処理を行う	設定した内容で同期します。フル同期と増分同期を選ぶことができます。実行中の場合は、[同期中止]と表示されます。クリックすると同期を中止します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

※ 同期の履歴は残りません。

## ■ リストア

M: マスター機用 S: スレーブ機用

項目	内容	クローン	
		M	S
ジョブ名/リストア先	作成した同期一覧が表示されます。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
リストア設定	リストア元 Azure コンテナ名	リストア元に使っていた Microsoft Azure のコンテナ名を入力します。	
	Azure アカウント名	Microsoft Azure のアカウントを入力します。	
	Azure アクセスキー	コンテナのアクセスキーを入力します。	
	リストア先フォルダー	リストア先のフォルダーを設定します。	
リストアを開始する	Microsoft Azure からのリストアを開始します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

# AWS連携

## ■ 同期設定

M: マスター機用 S: スレーブ機用

項目	内容	クローン	
		M	S
ジョブ名/同期元	作成した同期一覧が表示されます。	○	○
新規ジョブ作成	ジョブを新規作成し、設定します。	○	○
編集	選んだジョブを編集します。	○	○
削除	選んだジョブを削除します。	○	○
ジョブ設定	ジョブ名	ジョブの名前を設定します。	
	VSS を利用する	チェックを入れると、同期開始時に VSS スナップショットをおこない、同期にそれを使用します。	
	同期元フォルダー	マスターの同期する共有フォルダーを設定します。	
	同期先 AWS バケット名	同期先 Amazon S3 のバケット名を入力します。 (同期先として使用可能なバケットは、すでに存在しているバケットである必要があります。)	
	AWS アクセスキー ID	同期先 Amazon S3 のアカウントキーを入力する。	
	エンドポイント指定	AWS 互換サービスを使用する場合のエンドポイントを指定します。	
	AWS シークレットアクセスキー	同期先 Amazon S3 のシークレットアクセスキーを入力します。	
		○	○

項目	内容	クローン	
		M	S
増分同期	増分同期のスケジュールを設定します。*	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
フル同期 (リフレッシュ)	フル同期のスケジュールを設定します。*	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
前回実行日時	直近で同期した日時を表示します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
今すぐ同期 処理を行う	設定した内容で同期します。フル同期と増分同期を選ぶことができます。 実行中の場合は、[同期中止]と表示されます。クリックすると同期を中止します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

※ 同期の履歴は残りません。

## ■ リストア

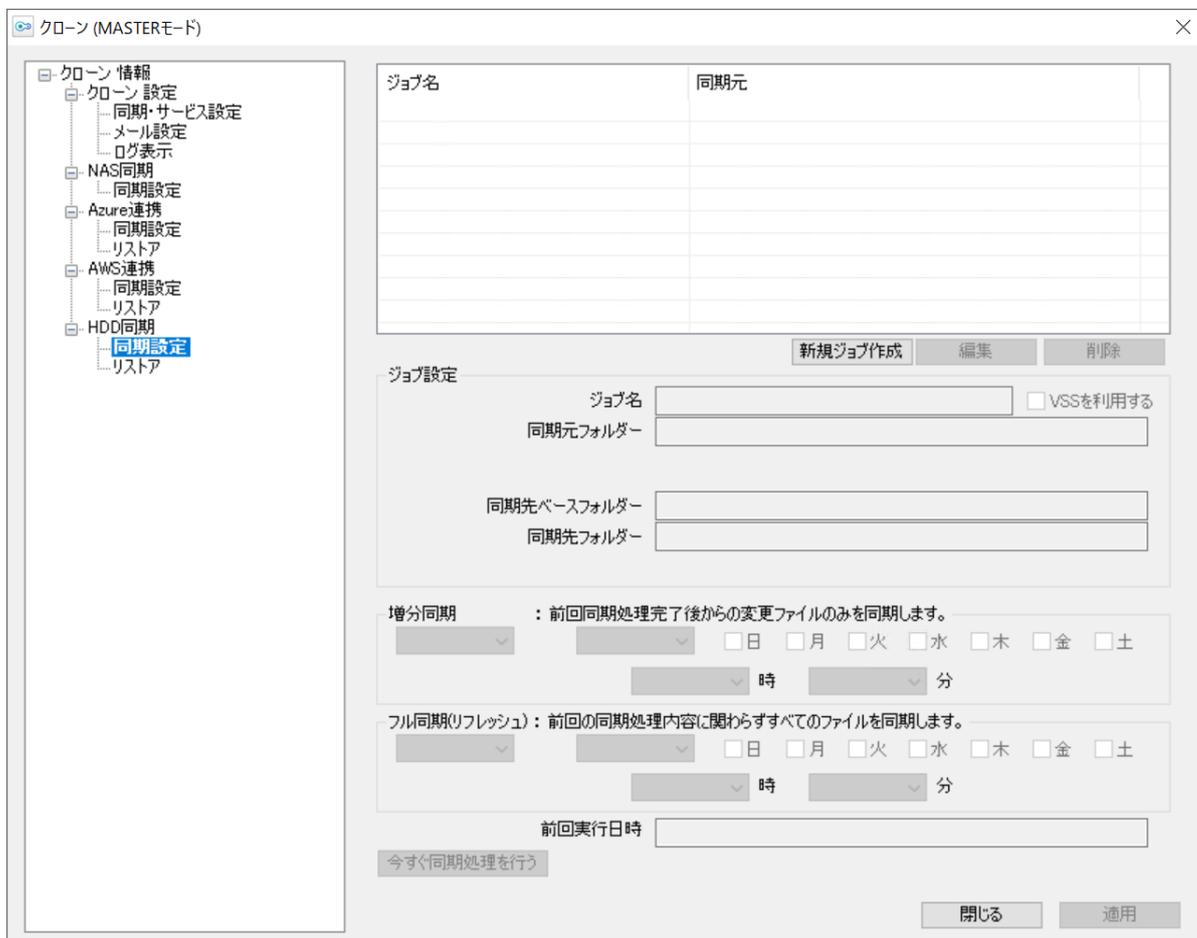


M: マスター機用 S: スレーブ機用

項目	内容	クローン	
		M	S
ジョブ名／リストア先	作成した同期一覧を表示します。	○	○
リストア設定	リストア元 AWS バケット名		
	AWS アクセスキー ID		
	エンドポイント指定	○	○
	AWS シークレットアクセスキー		
	リストア先フォルダー		
リストアを開始する	Amazon S3 からのリストアを開始します。	○	○

# HDD同期

## ■ 同期設定



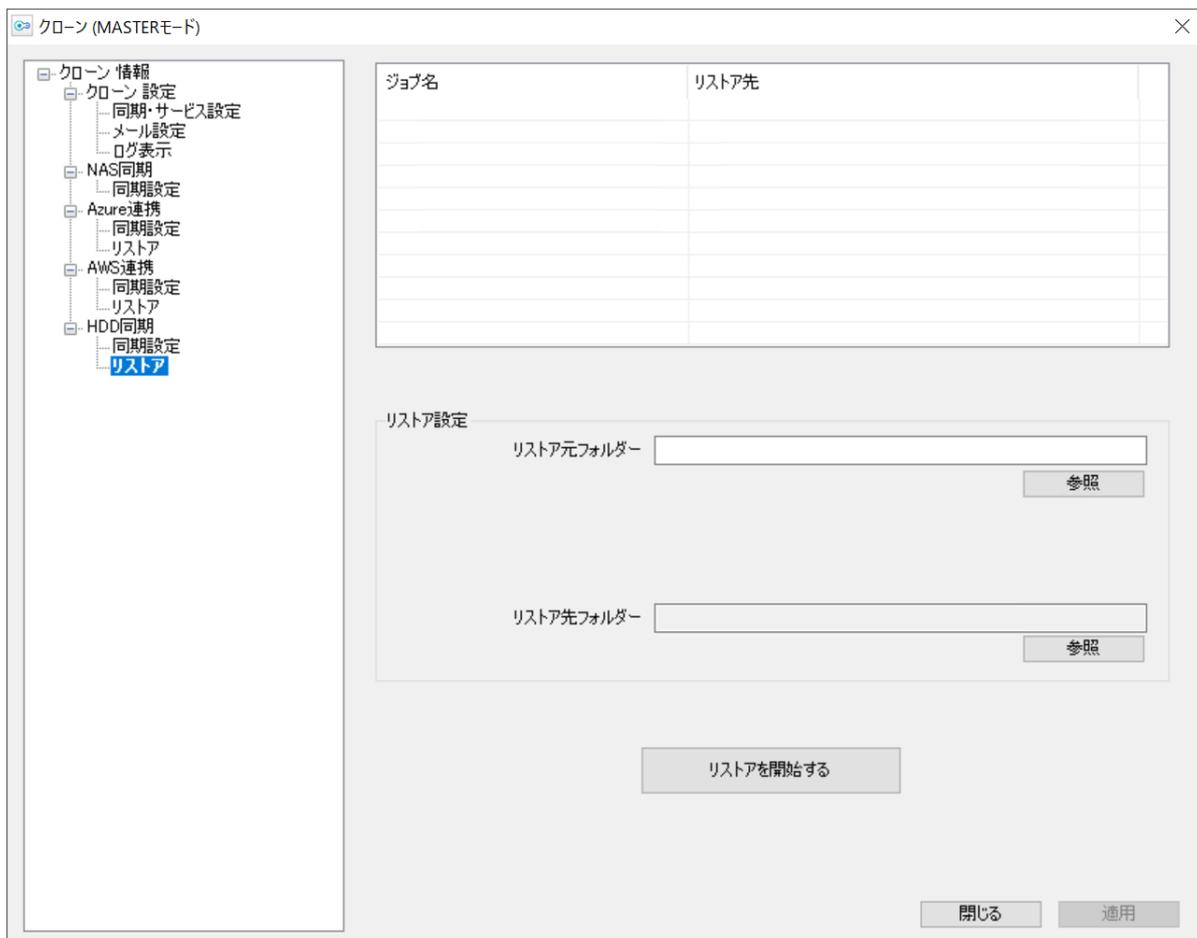
M: マスター機用 S: スレーブ機用

項目	内容	クローン	
		M	S
ジョブ名/同期元	作成した同期一覧が表示されます。	○	○
新規ジョブ作成	ジョブを新規作成し、設定します。	○	○
編集	選んだジョブを編集します。	○	○
削除	選んだジョブを削除します。	○	○
ジョブ設定	ジョブ名	ジョブの名前を設定します。	
	VSS を利用する	チェックを入れると、同期開始時にVSSスナップショットをおこない、同期にそれを使用します。	
	同期元フォルダー	マスターの同期する共有フォルダーを設定します。	
	同期先ベースフォルダー	「参照」をクリックして、同期先のフォルダーを選択します。(同期先は、このベースフォルダーに同期元の最下位フォルダー名が付加されます。)	
	同期先フォルダー	同期先フォルダーが表示されます。(自動入力)	
増分同期	増分同期のスケジュールを設定します。*	○	○

項目	内容	クローン	
		M	S
フル同期 (リフレッシュ)	フル同期のスケジュールを設定します。*	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
前回実行日時	直近で同期した日時を表示します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
今すぐ同期 処理を行う	設定した内容で同期します。フル同期と増分同期を選ぶことができます。実行中の場合は、[同期中止]と表示されます。クリックすると同期を中止します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

※ 同期の履歴は残りません。

## ■ リストア



M: マスター機用 S: スレーブ機用

項目	内容	クローン	
		M	S
ジョブ名／リストア元	作成した同期一覧を表示します。	○	○
リストア設定	リストア元フォルダー	○	○
	リストア先フォルダー	○	○
リストアを開始する	外付けHDDからのリストアを開始します。	○	○

# ログ表示

## MEMO アドミリンク連携について

アドミリンクではクローンのログを参照し、バックアップの「成功」と「失敗」をイベントとして検知します。「成功」と「失敗」のイベントは、アドミリンクからメールで通知されます。別途アドミリンクアプリのインストールと製品登録が必要になります。詳しくは、アドミリンクサイトをご確認ください。

※以下の●は、メールアドレス設定で「同期正常終了時にもメール通知する」にチェックを入れた場合にのみ通知されることを示しています。

## ■ NAS 同期サービス

表示内容	説明	通知			
		ログファイル	イベントログ	メール	アドミリンク
クローン NAS 同期サービス を開始しました。	サービスを開始した	○	○	—	—
クローン NAS 同期サービス を終了しました。	サービスを終了した (サーバーシャットダウン含む)	○	○	—	—
クローン NAS 同期サービス を一時停止しました。	サービスを一時停止した	○	—	—	—
クローン NAS 同期サービス を再開しました。	サービスを再開した	○	○	—	—
サービス設定の読み込みに成功しました。	共通設定の読み込みに成功した	○	—	—	—
ジョブ設定の読み込みに成功しました。(ジョブ数:* ジョブ数*)	ジョブ設定の読み込みに成功した	○	—	—	—
メール通知設定の読み込みに成功しました。	メール設定の読み込みに成功した	○	—	—	—
ジョブ [* ジョブ名 *] が実行待機状態になりました。	実行数が上限に達して いて実行待機になった	○	—	—	—
待機中だったジョブ [* ジョブ名 *] の同期を開始します。	待機中だったジョブが開始される	○	—	—	—
ジョブ [* ジョブ名 *] は既に実行中・実行待機中です。	実行しようとしたジョブ が実行中	○	—	—	—
ジョブ [* ジョブ名 *] * 個数 * 個の増分フォルダー ／ファイル削除が完了しました。	削除完了時 (全フォル ダー／ファイル成功)	○	—	—	—
ジョブ [* ジョブ名 *] * 個数 * 個の増分フォルダー ／ファイル削除が完了し、* 個数 * 個のフォルダー ／ファイル削除に失敗しました。	削除完了時 (エラーフォル ダー／ファイルあり)	○	—	—	—
ジョブ [* ジョブ名 *] * 個数 * 個の増分フォルダー ／ファイルが削除できませんでした。	削除完了時 (全フォル ダー／ファイル失敗)	○	—	—	—
ジョブ [* ジョブ名 *] * 個数 * 個 (内スキップ * 個 数 * 個) の同期が完了し、* 個数 * 個のフォルダー ／ファイル同期に失敗しました。	コピー完了時 (エラー フォルダー／ファイルあり)	○	—	—	—

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	アドミ リンク
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイルが同期できませんでした。	コピー完了時 (全フォルダー／ファイル失敗)	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイル再削除が完了しました。	再削除完了時 (全フォルダー／ファイル成功)	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイル再削除が完了し、* <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイル再削除に失敗しました。	再削除完了時 (エラーフォルダー／ファイルあり)	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイル再同期が完了しました。	再コピー完了時 (全フォルダー／ファイル成功)	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイル同期に成功し、* <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイル同期に失敗しました。	コピー完了時 (全フォルダー／ファイル失敗)	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個のエラーログを省略しました。	エラーログの数が上限値を超えていた	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイル削除をリトライします。	削除に失敗したフォルダー／ファイルをリトライするとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイル同期をリトライします。	コピーに失敗したフォルダー／ファイルをリトライするとき	○	—	—	—
前回サービス終了時にジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] が実行中・実行待機中でした。	サービス起動時にジョブの実行中フラグが有効のままだったとき	○	○	○	—
ログのメール送信に失敗しました。	ログのメール送信に失敗したとき	○	○	○	—
ログのイベントログ記録に失敗しました。	ログのイベントログ記録に失敗したとき	○	○	○	—
ログのファイル記録に失敗しました。	ログのファイル記録に失敗したとき	○	○	○	—
サービス設定の読み込みに失敗しました。	共通設定の読み込みに失敗したとき	○	○	—	—
メール通知設定の読み込みに失敗しました。	メール設定の読み込みに失敗したとき	○	○	—	—
ジョブ設定の読み込みに失敗しました。	ジョブ設定の読み込みに失敗したとき	○	○	—	—
ジョブデータが不正です。	ジョブの設定情報が不正だったとき	○	○	○	—

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	アドミ リンク
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期先リストファイルの作成に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	リストファイルの作成に失敗したとき	○	○	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] リストファイルの終了処理に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期用リストファイルの終了処理に失敗したとき	○	○	—	—
設定情報の同期に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *)	設定情報の同期に失敗したとき	○	○	—	—
ジョブ設定の同期に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *)	ジョブ設定の同期に失敗したとき	○	○	—	—
情報取得ツールを起動できませんでした。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *)	NW 情報取得ツールの実行に失敗したとき	○	○	—	—
情報取得ツールから終了コードを取得できませんでした。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *)	NW 情報取得ツールの結果取得に失敗したとき	○	○	—	—
コンピューター名の取得に失敗しました。	NW 情報取得ツールがコンピューター名の取得に失敗したとき	○	○	—	—
IP アドレスの取得に失敗しました。	NW 情報取得ツールがIP アドレスの取得に失敗したとき	○	○	—	—
ユーザー情報の取得に失敗しました。	NW 情報取得ツールがユーザー情報の取得に失敗したとき	○	○	—	—
グループ情報の取得に失敗しました。	NW 情報取得ツールがグループ情報の取得に失敗したとき	○	○	—	—
グループメンバ情報の取得に失敗しました。	NW 情報取得ツールがグループメンバ情報の取得に失敗したとき	○	○	—	—
共有フォルダー情報の取得に失敗しました。	NW 情報取得ツールが共有フォルダー情報の取得に失敗したとき	○	○	—	—
設定ファイルの作成に失敗しました。	NW 情報取得ツールが設定ファイルの作成に失敗したとき	○	○	—	—
設定ファイルの書き込みに失敗しました。	NW 情報取得ツールが設定ファイルの書き込みに失敗したとき	○	○	—	—

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	アドミ リンク
設定ファイルが正しく保存できませんでした。	NW 情報取得ツールが設定ファイルの保存に失敗したとき	○	○	—	—
ワークグループ・ドメイン情報の取得に失敗しました。	NW 情報取得ツールがワークグループ・ドメイン情報の取得に失敗したとき	○	○	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期先ファイルの削除に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期先ファイルの削除に失敗したとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期先フォルダーの削除に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期先フォルダーの削除に失敗したとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] ファイル時刻のコピーに失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	ファイル時刻のコピーに失敗したとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] ファイル属性のコピーに失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	ファイル属性のコピーに失敗したとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] ファイルコピーに失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	ファイルのコピーに失敗したとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] フォルダー作成に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	フォルダーの作成に失敗したとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] ファイルオープンに失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期先ファイルのオープンに失敗したとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] コピー先の容量が足りませんでした。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期先の空き容量がなくなったとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] ファイル時刻のコピーに失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	ファイル時刻のコピーに失敗したとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] ファイル属性のコピーに失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	ファイル属性のコピーに失敗したとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期用パイプの WRITE に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期スレッドとのパイプ通信 (WRITE) に失敗したとき	○	—	—	—

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	アドミ リンク
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期用パイプの READ に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期スレッドとのパイプ通信 (READ) に失敗したとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] リトライ用ファイルの削除に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	リトライ用ファイルの削除に失敗したとき	○	○	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] リトライ用ファイルの更新に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	リトライ用ファイルの更新に失敗したとき	○	○	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期コマンドが正しくありませんでした。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	スレッド間のコマンドが不正だったとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] ファイルコピーに成功しました。 * <b>ファイル名</b> *	ファイルコピーに成功したとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] ファイルコピーをスキップしました。 * <b>ファイル名</b> *	ファイルコピーをスキップしたとき	○	—	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] の同期を開始します。	同期が開始されたとき	○	○	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] を編集、削除しました。	同期ジョブを編集、削除したとき	○	○	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個 (内スキップ * <b>個数</b> * 個) のフォルダー／ファイル同期が完了しました。	同期完了時 (全フォルダー／ファイル成功)	○	○	●	○
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個 (内スキップ * <b>個数</b> * 個) の同期が完了し、* <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイル同期に失敗しました。	同期完了時 (エラーフォルダー／ファイルあり)	○	○	○	○
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイルが同期できませんでした。	同期完了時 (全フォルダー／ファイル失敗)	○	○	○	○
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに * <b>個数</b> * 個 (内スキップ * <b>個数</b> * 個) のフォルダー／ファイル同期が完了しました。	コピー中に同期が中止になったとき (全フォルダー／ファイル成功)	○	○	○	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに * <b>個数</b> * 個 (内スキップ * <b>個数</b> * 個) の同期が完了し、* <b>個数</b> * 個の同期に失敗しました。	コピー中に同期が中止になったとき (エラーファイルあり)	○	○	○	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに * <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイル削除が完了しました。	削除中に同期を中止したとき	○	○	○	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに * <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイル削除が完了し、* <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイル削除に失敗しました。	削除中に同期が中止になったとき (エラーフォルダー／ファイルあり)	○	○	○	—

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	アドミ リンク
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期元フォルダーが正しくありません。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期元フォルダーのチェックに失敗したとき	○	○	○	○
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期用メモリの確保に失敗したとき	○	○	○	○
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] ネットワークドライブが見つかりませんでした。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期先のネットワークフォルダーが見つからなかったとき	○	○	○	○
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] ネットワーク接続用ユーザーへのログインに失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *)	ネットワーク接続用ユーザーへのログインに失敗したとき	○	○	○	○
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] ネットワークドライブへのログインに失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期先ネットワークフォルダーへのログインに失敗したとき	○	○	○	○
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期先フォルダーが正しくありません。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期先フォルダーのチェックに失敗したとき	○	○	○	○
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 同期先のクローンのバージョンが違います。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>同期元のフォルダー名</b> *	マスターとスレーブでクローンのバージョンが違う	○	○	○	○
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] 指定された同期先は、他のコンピューターの同期先に使用されているため、同期できません。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>同期元のフォルダー名</b> *	すでに使われている同期先	○	○	○	○

## ■ Azure 連携サービス

表示内容	説明	通知			
		ログファイル	イベントログ	メール	アドミリンク
クローン Azure 連携サービス を開始しました。	サービス開始時	○	○	—	—
クローン Azure 連携サービス を終了しました。	サービス終了時 (サーバーシャットダウン含む)	○	○	—	—
クローン Azure 連携サービス を一時停止しました。	サービス一時停止時	○	—	—	—
クローン Azure 連携サービス を再開しました。	サービス再開時	○	○	—	—
Azure からのリストアを開始します。	リストアが開始されたとき	○	○	—	—
[Azure リストア] * <b>個数</b> * 個のリストアが完了しました。	リストア完了時 (全ファイル成功)	○	○	●	—
[Azure リストア] * <b>個数</b> * 個のリストアが完了し、* <b>個数</b> * 個のリストアに失敗しました。	リストア完了時 (エラーファイルあり)	○	○	○	—
[Azure リストア] リストア中止までに * <b>個数</b> * 個のリストアが完了しました。	リストア中止時 (エラーファイル無し)	○	○	—	—
[Azure リストア] リストア中止までに * <b>個数</b> * 個のリストアが完了し、* <b>個数</b> * 個のリストアに失敗しました。	リストア中止時 (エラーファイルあり)	○	○	—	—
[Azure リストア] * <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイルがリストアできませんでした。	リストア完了時 (全フォルダー／ファイル失敗)	○	○	○	—
[Azure リストア] リストア先フォルダーが正しくありません。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	リストア先フォルダーが正しくなかったとき	○	○	○	—
[Azure リストア] リストア用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	リストア用メモリの確保に失敗したとき	○	○	○	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] の同期を開始します。	同期が開始されたとき	○	○	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] を編集、削除しました。	同期ジョブを編集、削除したとき	○	○	—	—
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個 (内スキップ * <b>個数</b> * 個) のフォルダー／ファイル同期が完了しました。	同期完了時 (全フォルダー／ファイル成功)	○	○	○	○
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個 (内スキップ * <b>個数</b> * 個) の同期が完了し、* <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイル同期に失敗しました。	同期完了時 (エラーフォルダー／ファイルあり)	○	○	○	○
ジョブ [* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個のフォルダー／ファイルが同期できませんでした。	同期完了時 (全フォルダー／ファイル失敗)	○	○	○	○

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	アドミ リンク
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに* <b>個数</b> *個(内スキップ* <b>個数</b> *個)のフォルダー/ファイル同期が完了しました。	コピー中に同期が中止になったとき(全フォルダー/ファイル成功)	○	○	○	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに* <b>個数</b> *個(内スキップ* <b>個数</b> *個)の同期が完了し、* <b>個数</b> *個の同期に失敗しました。	コピー中に同期が中止になったとき(エラーファイルあり)	○	○	○	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに* <b>個数</b> *個のフォルダー/ファイル削除が完了しました。	削除中に同期を中止したとき	○	○	○	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに* <b>個数</b> *個のフォルダー/ファイル削除が完了し、* <b>個数</b> *個のフォルダー/ファイル削除に失敗しました。	削除中に同期が中止になったとき(エラーフォルダー/ファイルあり)	○	○	○	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期元フォルダーが正しくありません。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *)* <b>ファイル名</b> *	同期元フォルダーのチェックに失敗したとき	○	○	○	○
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *)* <b>ファイル名</b> *	同期用メモリの確保に失敗したとき	○	○	○	○
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 指定された同期先は、他のコンピューターの同期先に使用されているため、同期できません。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *)* <b>同期元のフォルダー名</b> *	すでに使われている同期先	○	○	○	○

## ■ AWS 連携サービス

表示内容	説明	通知			
		ログファイル	イベントログ	メール	アドミリンク
クローン AWS 連携サービス を開始しました。	サービス開始時	○	○	—	—
クローン AWS 連携サービス を終了しました。	サービス終了時 (サーバーシャットダウン含む)	○	○	—	—
クローン AWS 連携サービス を一時停止しました。	サービス一時停止時	○	—	—	—
クローン AWS 連携サービス を再開しました。	サービス再開時	○	○	—	—
AWS からのリストアを開始します。	リストアが開始されたとき	○	○	—	—
[AWS リストア] * 個数 * 個のリストアが完了しました。	リストア完了時 (全ファイル成功)	○	○	●	—
[AWS リストア] * 個数 * 個のリストアが完了し、* 個数 * 個のリストアに失敗しました。	リストア完了時 (エラーファイルあり)	○	○	○	—
[AWS リストア] * 個数 * 個のフォルダー／ファイルがリストアできませんでした。	リストア完了時 (全フォルダー／ファイル失敗)	○	○	○	—
[AWS リストア] リストア中止までに %1!s! 個のリストアが完了しました。	リストア中止時 (エラーファイル無し)	○	○	—	—
[AWS リストア] リストア中止までに * 個数 * 個のリストアが完了し、* 個数 * 個のリストアに失敗しました。	リストア中止時 (エラーファイルあり)	○	○	—	—
[AWS リストア] リストア先フォルダーが正しくありません。(エラーコード:* コード番号*) * ファイル名 *	リストア先フォルダーが正しくなかったとき	○	○	○	—
[AWS リストア] リストア用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:* コード番号*) * ファイル名 *	リストア用メモリの確保に失敗したとき	○	○	○	—
ジョブ [* ジョブ名 *] の同期を開始します。	同期が開始されたとき	○	○	—	—
ジョブ [* ジョブ名 *] を編集、削除しました。	同期ジョブを編集、削除したとき	○	○	—	—
ジョブ [* ジョブ名 *] * 個数 * 個 (内スキップ * 個数 * 個) のフォルダー／ファイル同期が完了しました。	同期完了時 (全フォルダー／ファイル成功)	○	○	●	○
ジョブ [* ジョブ名 *] * 個数 * 個 (内スキップ * 個数 * 個) の同期が完了し、* 個数 * 個のフォルダー／ファイル同期に失敗しました。	同期完了時 (エラーフォルダー／ファイルあり)	○	○	○	○
ジョブ [* ジョブ名 *] * 個数 * 個のフォルダー／ファイルが同期できませんでした。	同期完了時 (全フォルダー／ファイル失敗)	○	○	○	○

表示内容	説明	通知			
		ログ ファイル	イベント ログ	メール	アドミ リンク
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに* <b>個数</b> *個(内スキップ* <b>個数</b> *個)のフォルダー/ファイル同期が完了しました。	コピー中に同期が中止になったとき(全フォルダー/ファイル成功)	○	○	○	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに* <b>個数</b> *個(内スキップ* <b>個数</b> *個)の同期が完了し、* <b>個数</b> *個の同期に失敗しました。	コピー中に同期が中止になったとき(エラーファイルあり)	○	○	○	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに* <b>個数</b> *個のフォルダー/ファイル削除が完了しました。	削除中に同期を中止したとき	○	○	○	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに* <b>個数</b> *個のフォルダー/ファイル削除が完了し、* <b>個数</b> *個のフォルダー/ファイル削除に失敗しました。	削除中に同期が中止になったとき(エラーフォルダー/ファイルあり)	○	○	○	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期元フォルダーが正しくありません。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期元フォルダーのチェックに失敗したとき	○	○	○	○
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期用メモリの確保に失敗したとき	○	○	○	○
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 指定された同期先は、他のコンピューターの同期先に使用されているため、同期できません。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>同期元のフォルダー名</b> *	すでに使われている同期先	○	○	○	○

## ■ 外付けHDD 同期サービス

表示内容	説明	通知			
		ログファイル	イベントログ	メール	アドミリンク
クローンHDD同期サービスを開始しました。	サービス開始時	○	○	—	—
クローンHDD同期サービスを終了しました。	サービス終了時(サーバーシャットダウン含む)	○	○	—	—
クローンHDD同期サービスを一時停止しました。	サービス一時停止時	○	—	—	—
クローンHDD同期サービスを再開しました。	サービス再開時	○	○	—	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *]の同期を開始します。	同期が開始されたとき	○	○	—	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *]を編集、削除しました。	同期ジョブを編集、削除したとき	○	○	—	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個(内スキップ * <b>個数</b> * 個)のフォルダー/ファイル同期が完了しました。	同期完了時(全フォルダー/ファイル成功)	○	○	●	○
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個(内スキップ * <b>個数</b> * 個)の同期が完了し、* <b>個数</b> * 個のファイル同期に失敗しました。	同期完了時(エラーファイルあり)	○	○	○	○
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] * <b>個数</b> * 個のフォルダー/ファイルが同期できませんでした。	同期完了時(全フォルダー/ファイル失敗)	○	○	○	○
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに * <b>個数</b> * 個(内スキップ * <b>個数</b> * 個)のフォルダー/ファイル同期が完了しました。	コピー中に同期が中止になったとき(全フォルダー/ファイル成功)	○	○	○	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに * <b>個数</b> * 個(内スキップ * <b>個数</b> * 個)の同期が完了し、* <b>個数</b> * 個の同期に失敗しました。	コピー中に同期が中止になったとき(エラーファイルあり)	○	○	○	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに * <b>個数</b> * 個のフォルダー/ファイル削除が完了しました。	削除中に同期を中止したとき	○	○	○	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期中止までに * <b>個数</b> * 個のフォルダー/ファイル削除が完了し、* <b>個数</b> * 個のフォルダー/ファイル削除に失敗しました。	削除中に同期が中止になったとき(エラーフォルダー/ファイルあり)	○	○	○	—
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期元フォルダーが正しくありません。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期元フォルダーのチェックに失敗したとき	○	○	○	○
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期用メモリの確保に失敗したとき	○	○	○	○
ジョブ[* <b>ジョブ名</b> *] 同期先フォルダーが正しくありません。(エラーコード:* <b>コード番号</b> *) * <b>ファイル名</b> *	同期先フォルダーのチェックに失敗したとき	○	○	○	○

## 同期が実行できない

- 同期設定を再度確認してください。
- マスター機を再起動してみてください。

## 同期がエラー終了する

- マスターとスレーブで同じバージョンのクローンがインストールされていることを確認してください。
- 同期先の空き容量不足が考えられます。同期するファイルを減らしてください。
- 同期とユーザーのファイル操作が重複していたことが考えられます。  
同期中はNASのファイル操作を極力ご遠慮ください。  
他のファイルの同期は完了しています。該当ファイルは次回同期時に同期されます。
- [VSSを利用する]のチェックを外してお試しください。VSS実行中にファイル更新がおこなわれている場合、ファイル同期が正常に行われな場合があります。

上記で解決しない場合は、サポートセンターにお問い合わせください。

## 同期が実行されたのか確認したい

- コンピューターの管理よりイベントログにて結果を確認できます。
- メール通知設定をおこなうとジョブ完了時にメールで結果を確認できます。
- また、アドミリンクに登録するとアドミリンクからの通知で確認できます。

## 同期時刻が重なった場合はどうなりますか？

開始時刻が早いものから実行しそのジョブが完了後に、順次実行されます。

## メールが送信できない

メール設定をご確認ください（10ページ「メール設定する」参照）。  
メール設定後はテストメールを送信し、正常にメール送信できることをご確認ください。

## 同期データのファイルやフォルダー単位での復元（リストア）がしたい

ファイル単位での復元機能はありません。

- スレーブには、マスターと同じファイル・フォルダー構成で配置されていますので、管理者が直接アクセスして取り出すことができます。
- 外付けHDDで同期した場合、管理者が直接外付けHDDにアクセスすることで、フォルダー単位での復元ができます。
- Microsoft Azureではコンテナ単位、Amazon S3(AWS)ではバケット単位で、指定されたフォルダーへの復元ができます。

## ネットワーク設定切替したら、エラーが表示された

「中断」をクリックし、以下の手順にしたがってください。

- ① 登録された「ユーザー」「グループ」「共有フォルダー」がマスターと同じ設定に切り替わっていることを確認します。
- ② 切り替わっていない設定を、手動で設定します。
- ③ 「切替」で再度、切り替えをおこないます。
- ④ [「マスター/スレーブ同期設定」](#)（→P.14）の手順1を参照し、スレーブとして設定します。

※「続行」ボタンをクリックした場合は、そのまま「IP アドレス」と「コンピューター名」の切り替えを行います。その後、④を行ってください。

## スレーブ機をマスター機に切り替えた後、アクセスできない

ユーザーパスワードが変更されていることが考えられます。

切り替え後のユーザーパスワードは、ユーザー名と同じになります。ユーザーごとにパスワードの再設定をおこなってください。

※すでにマスターと同じユーザーが存在していた場合、昇格時にパスワードは変更されません。

## クラウドストレージへの同期に失敗する

クラウドストレージ同期に関する設定を、再度確認してください。

- 「Azure連携」 「同期設定」(52 ページ) 参照
- 「AWS連携」 「同期設定」(54 ページ) 参照

## ActiveDirectory サーバーをマスター機にしたら、同期に失敗する

以下の操作をお試しください。

- ① マスターに作られたユーザー「synclogin」を管理者グループ (Administrator) に所属させます。
- ② スレーブを ActiveDirectory から離脱させ、Workgroup モードで運用します。
- ③ マスターで同期ジョブを設定する際、「同期先コンピューター名」にスレーブの名前を手入力します。
- ④ すべての操作が終わったら、同期が成功するか確認します。

## 外付け HDD への同期に失敗する

同期元の NAS に外付け HDD が正しく接続されていることをご確認ください。

- 「NAS同期」 「同期設定」(49 ページ) 参照
- 「HDD同期」 「同期設定」(57 ページ) 参照

## マスター機とスレーブ機のファイル (フォルダー) 数に違いがある

- フル同期を実行してください。
- ログを確認し、エラーが発生していないか確認してください。
- マスター機の同期対象にシステムファイル (フォルダー) が含まれていないか確認してください。

## マスター昇格時にエラーが発生する

- マスター機と IP アドレスの重複が発生していることが考えられます。マスター機をネットワークから取り外してください。
- その他のエラーが発生している可能性があります。以下に保存されているログファイルの内容をご確認ください。

<C:\ProgramData\ELECOM\SyncwithBE\Log\ChHDLMinfo.log>

※ 隠しファイルになっている可能性があります。エクスプローラーで、[隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する] を有効にしてご確認ください。

# ELECOM

---

ファイル同期ツール  
クローン for Windows

発行 エレコム株式会社

---

©ELECOM CO.,LTD. 2022 All Rights Reserved.